

令和7年度
福津市食育に関するアンケート調査報告書(案)

令和8年3月27日時点

令和8年3月

目次

I 調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査設計	2
3. 回収結果	3
4. 報告書の読み方	3
II 市民対象調査の結果	4
1. 対象者の属性	4
2. 「食育」について	5
3. 食生活について	11
4. 食に関する活動について	28
5. 地産地消について	37
6. 食文化・伝統料理について	39
7. その他	41
III 幼児の保護者対象調査の結果	46
1. 対象者と子どもの属性	46
2. 子どもの食生活について	47
3. 子どもの生活について	53
4. 「食育」について	54
5. 保護者の食生活について	58
6. その他	65
IV 小学生・中学生・高校生対象調査の結果	70
1. 対象者の属性	70
2. 食生活について	71
3. 生活リズムについて	89
4. 「食育」について	91
5. その他	96

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成29年3月に策定した第2次福津市食育推進計画「福津のめぐみ笑顔が
つながるみんなの食卓」に基づいて食育が推進され、様々な食育活動が市民にどの程
度浸透しているかを検証し、食育推進を図るための基礎資料を得ることを目的とす
る。

2. 調査設計

2-1 市民対象アンケート調査

(1) 調査対象者	18歳以上市民（18～75歳）
(2) 抽出方法	住民基本台帳による抽出1,500人
(3) 調査方法	Googleフォームを使用したアンケート
(4) 調査実施期間	令和7年 6月 ～ 7月
(5) 調査項目	1. 「食育」について 2. あなたの食生活について 3. 食に関する活動について 4. 地産地消について 5. 食文化・伝統料理について 6. その他

2-2 幼児の保護者対象アンケート調査

(1) 調査対象者	3～6歳までの幼児の保護者
(2) 抽出方法	住民基本台帳による抽出500人
(3) 調査方法	Googleフォームを使用したアンケート
(4) 調査実施期間	令和7年 6月 ～ 7月
(5) 調査項目	1. 子どもの食生活について 2. 子どもの生活などについて 3. 「食育」について 4. 保護者の食生活について 5. その他

2-3 小学生・中学生・高校生対象アンケート調査

(1) 調査対象者	小学校5年生、中学校2年生、高校2年生
(2) 抽出方法	以下全クラスを対象に実施 -市立小学校(7校)5年生841人 -市立中学校(3校)2年生748人 -県立水産高校2年生152人 -県立光陵高校2年生389人
(3) 調査方法	Googleフォームを使用したアンケート
(4) 調査実施期間	令和7年 6月 ~ 7月
(5) 調査項目	小学生・中学生・高校生共通 1. あなたの食生活について 2. あなたの生活リズムについて 3. 「食育」について 4. その他

3. 回収結果

区 分	標本数 (配布数)	標本数 (回収数)	回収率 (対配布数)
18歳以上市民	1,500	337	22.5%
幼児の保護者	500	206	41.2%
小学生	841	708	84.2%
中学生	748	669	89.4%
高校生	541	503	93.0%
合計	4,130	2,423	58.7%

4. 報告書の読み方

- 4-1 本報告書は、各調査票の設問に沿って構成した。
- 4-2 回答結果は少数第2位を四捨五入し、それぞれの割合を示している。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式。「SA」(Single Answerの略)と表記)であっても合計値が100.0%にならない場合がある。
- 4-3 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式。「MA」(Multiple Answerの略)と表記)の設問の場合、解答は選択肢ごとの有効回答数に対するそれぞれの割合を示している。
- 4-4 図表中の「不明・無回答」は、回答の判別が困難なもの、または回答が示されていないものである。
- 4-5 グラフ、および表の「N」は、標本数（集計対象者総数）を表す。
- 4-6 設問の選択肢については、長い文を簡略化している場合がある。

II 市民対象調査の結果

1. 対象者の属性

1-1 性別年齢構成

男 性	人数	%	女 性	人数	%
18～29歳	7	7.2	18～29歳	22	9.6
30～39歳	18	18.6	30～39歳	57	24.8
40～49歳	15	15.5	40～49歳	49	21.3
50～59歳	24	24.7	50～59歳	51	22.2
60～64歳	11	11.3	60～64歳	16	7.0
65～69歳	10	10.3	65～69歳	19	8.3
70歳以上	12	12.4	70歳以上	16	7.0
計	97	100.0	計	230	100.2

答えたくない10名

1-2 職業

職 業	人数	%
会社員・団体職員	121	35.9
公務員	37	11.0
自営業（農林漁業除く）	9	2.7
農林漁業	2	0.6
学生	7	2.1
パート・アルバイト	73	21.7
家事専業	49	14.5
無職	32	9.5
その他	7	2.1
計	337	100.1

1-3 居住地区

居住地区	人数	%
福間南小学校区	91	27.0
福間小学校区	91	27.0
神興小学校区	29	8.6
神興東小学校区	39	11.6
上西郷小学校区	10	3.0
津屋崎小学校区	72	21.4
勝浦小学校区	5	1.5
計	337	100.0

1-4 家族構成

家族構成	人数	%
一人暮らし	18	5.3
夫婦のみ	89	26.4
二世帯同居（親と子）	204	60.5
三世帯同居（親と子と孫）	16	4.7
その他	10	3.0
計	337	99.9

2. 「食育」について

問1. あなたは、「食育」に関心がありますか。(SA)

(第2次福津市食育推進計画 指標23)

「食育」に対する関心は、第2次福津市食育推進計画の基本目標5「連携・共働で食育を進める」の指標のひとつである。「食育について関心がある」、または「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は88.1%、前回調査結果(令和2年度)から7.5ポイント上昇していた。また、全国調査結果(食育に関する意識調査(令和7年))と比較すると、7.3ポイント高い結果であった。

<単数回答>

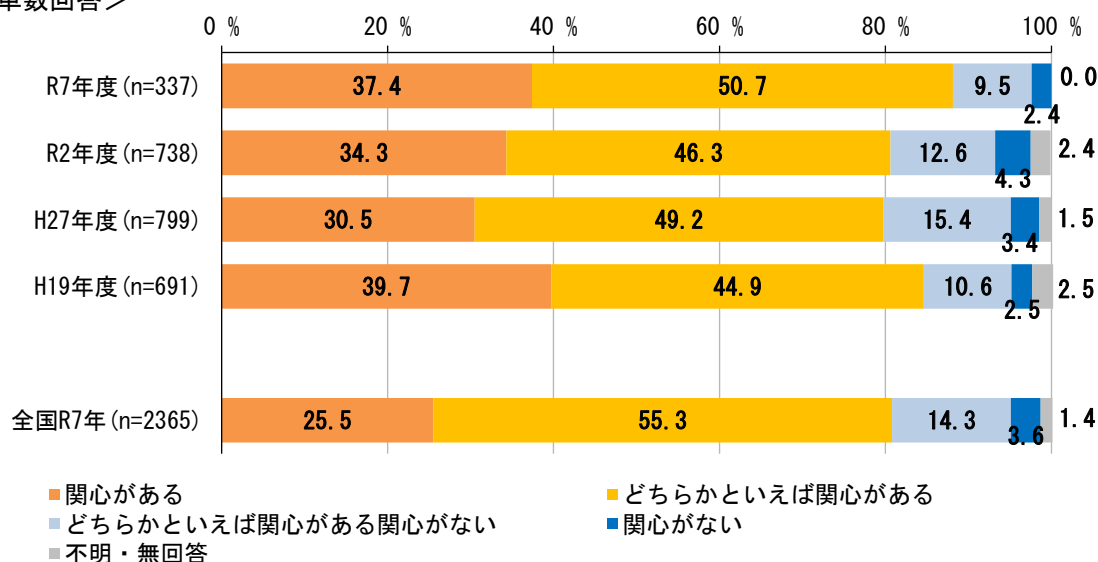


図1 食育への関心度 結果推移と全国調査結果

食育推進指標23

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
23	「食育」に関心のある市民の割合	84.6%	79.7%	80.6%	88.1%	90%

「食育への関心」を性別に比較すると、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」と答えた人を合わせた割合は男性が 87.7%、女性 89.2%であった。前回調査結果（男性：70.4%、女性：85.8%）から男性が 17.3 ポイント、女性が 3.4 ポイント増加する結果であり、男性の食育への関心が顕著に高くなり、男女間の差がほとんどなくなった。

表1 「食育」への関心：性別・年代別による比較

	関心がある	どちらかといえ ば関心がある	関心がない/ どちらかといえ ば関心がない	不明・無回答	計
H19 男性	70 (33.3)	84 (40.0)	50 (23.8)	10 (2.9)	210 (100.0)
H27 男性	58 (20.9)	131 (47.1)	85 (30.6)	4 (1.4)	278 (100.0)
R2 男性	65 (27.1)	104 (43.3)	64 (26.7)	7 (2.9)	240 (100.0)
R7 男性	38 (39.2)	47 (48.5)	12 (12.4)	0 (0.0)	97 (100.0)
18～29 歳	4 (57.1)	3 (42.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)
30～39 歳	7 (38.9)	8 (44.4)	3 (16.7)	0 (0.0)	18 (100.0)
40～49 歳	5 (33.3)	8 (53.3)	2 (13.3)	0 (0.0)	15 (100.0)
50～59 歳	7 (29.2)	14 (58.3)	3 (12.5)	0 (0.0)	24 (100.0)
60～64 歳	7 (63.6)	4 (36.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (100.0)
65～69 歳	4 (40.0)	5 (50.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
70 歳以上	4 (33.3)	5 (41.7)	3 (25.0)	0 (0.0)	12 (100.0)
H19 女性	195 (41.9)	222 (47.7)	38 (8.2)	10 (2.2)	465 (100.0)
H27 女性	180 (35.6)	256 (50.7)	62 (12.3)	7 (1.4)	505 (100.0)
R2 女性	186 (37.9)	235 (47.9)	60 (12.2)	10 (2.0)	491 (100.0)
R7 女性	85 (37.0)	120 (52.2)	25 (10.9)	0 (0.0)	230 (100.0)
18～29 歳	6 (27.3)	13 (59.1)	3 (13.6)	0 (0.0)	22 (100.0)
30～39 歳	30 (52.6)	21 (36.8)	6 (10.5)	0 (0.0)	57 (100.0)
40～49 歳	11 (22.5)	35 (71.4)	3 (6.1)	0 (0.0)	49 (100.0)
50～59 歳	20 (39.2)	24 (47.1)	7 (13.7)	0 (0.0)	51 (100.0)
60～64 歳	5 (31.3)	9 (56.3)	2 (12.5)	0 (0.0)	16 (100.0)
65～69 歳	7 (36.8)	9 (47.4)	3 (15.8)	0 (0.0)	19 (100.0)
70 歳以上	6 (37.5)	9 (56.3)	1 (6.3)	0 (0.0)	16 (100.0)

()内は%

（問 1 で「関心がある」または「どちらかといえば関心がある」を選んだ人に）
 問 1-1：あなたが、「食育」に関心がある理由は何ですか。（3MA）

食育に対する関心理由を問う質問では、「子どもの心身の健全な発育のために必要であるから」（65.3%）を選択した人が最も多く、次いで「生活習慣病（がん、糖尿病等）の増加が問題になっているから」（46.5%）、「食生活の乱れ（栄養バランスの乱れ、不規則な食事など）が問題になっているから」（41.8%）の順であり、過去の調査と同様に食育に関心のある上位 3 項目の理由であった。経年的推移をみると「食生活の乱れ」の問題に関心がある人は、これまでで最も低い回答者割合となった。

<複数回答>

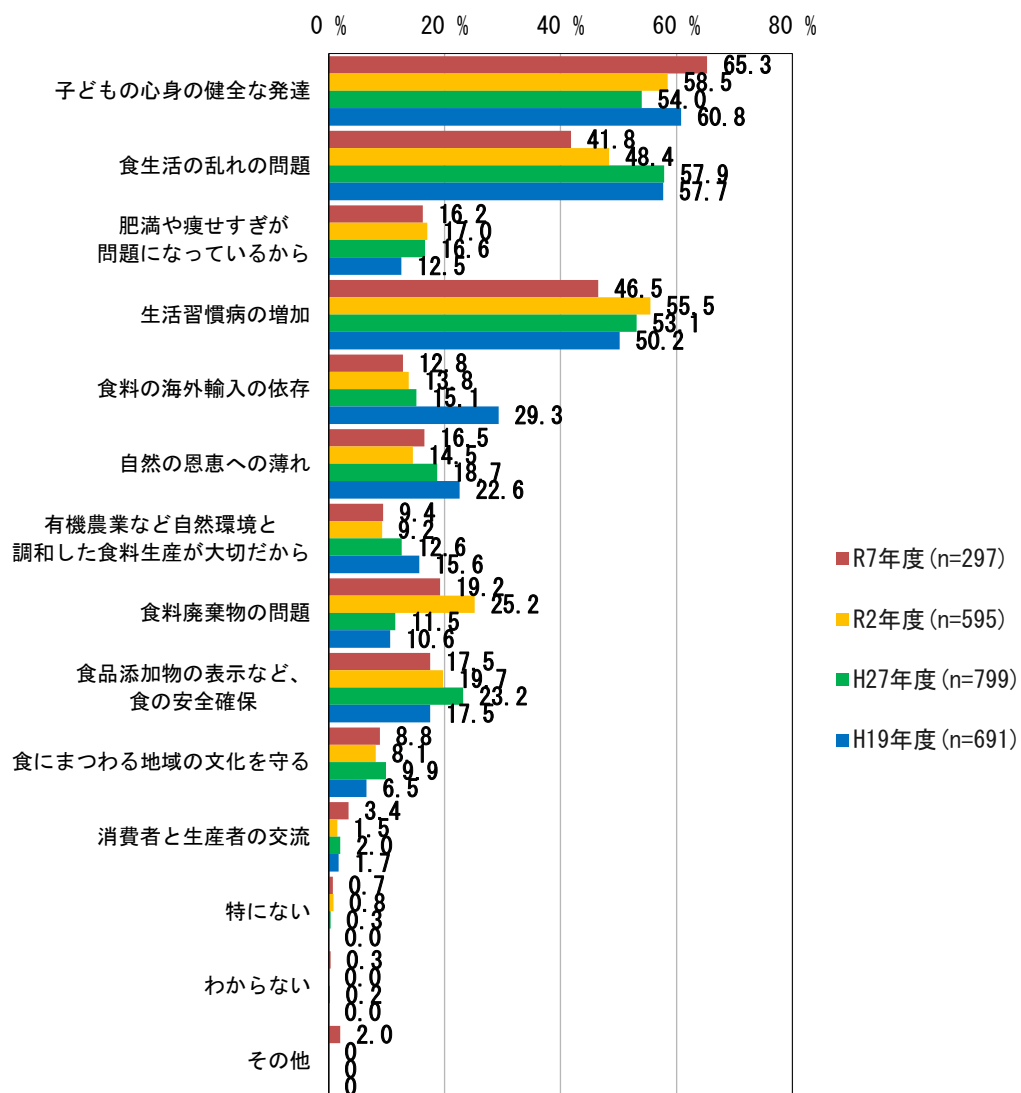


図 2 「食育」に関心がある理由 結果推移

問 2. あなたは、日頃から健全な食生活をおくるために「食育」を何らかの形で実践していますか。(SA) (第2次福津市食育推進計画 指標 22)

「食育を実践する市民の割合」は、第2次福津市食育推進計画の基本目標5「連携・共働で食育を進める」の指標である。食育を何らかのかたちで実践しているかとの問いに、「積極的にしている」と回答した人は8.3%、「できるだけするようにしている」では55.2%、両方を合わせると63.5%であった。今回の調査では、前回調査(令和2年度)より4.2ポイント減少した。

<単数回答>

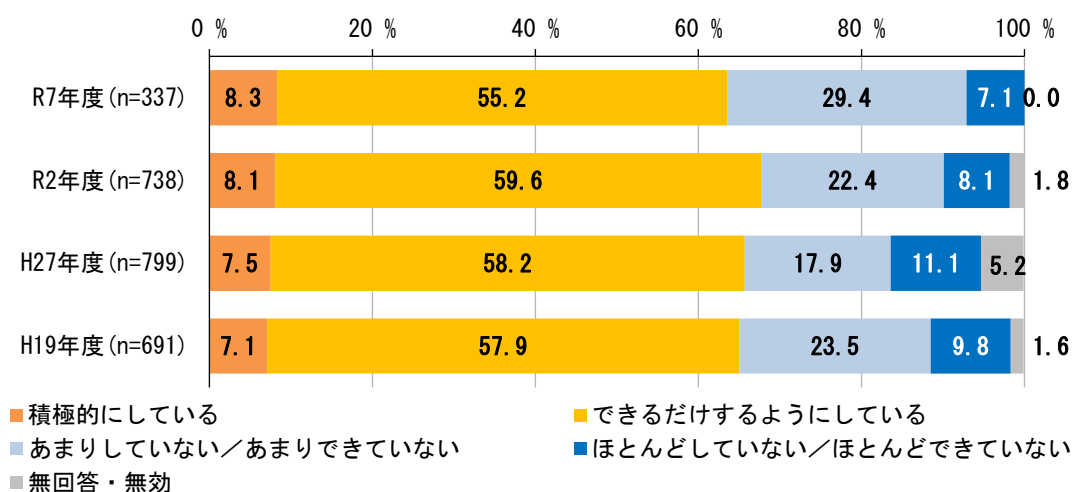


図3 食育活動の実践 結果推移

食育推進指標 22

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
22	「食育」を楽しんで実践している市民の割合	65.7%	65.0%	67.7%	63.5%	75%

「食育活動の実践」を性別で比較すると、男性で「積極的にしている」、「できるだけするようにしている」と回答した人を合わせた割合は 57.7%、女性では 66.5%であり、女性の方が食育活動の実践ができている。年代別で比較すると、男性では 50～59 歳の年齢層の 66.7%、女性では 60～69 歳の 78.9%、70 歳以上の 87.6%が実践していた。

表 2 「食育」の実践： 性別・年代別による比較

	積極的にしている	できるだけするようにしている	あまり&ほとんどしていない/できていない	不明・無回答	計
H19 男性	9 (4.3)	113 (53.8)	83 (39.5)	5 (2.4)	210 (100.0)
H27 男性	11 (4.0)	120 (43.2)	143 (51.4)	4 (1.4)	278 (100.0)
R2 男性	15 (6.3)	127 (52.9)	92 (38.4)	6 (2.5)	240 (100.0)
R7 男性	7 (7.2)	49 (50.5)	41 (42.3)	0 (0.0)	97 (100.0)
18～29 歳	0 (0.0)	6 (85.7)	1 (14.3)	0 (0.0)	7 (100.0)
30～39 歳	1 (5.6)	7 (38.9)	10 (55.6)	0 (0.0)	18 (100.0)
40～49 歳	0 (0.0)	5 (33.3)	10 (66.7)	0 (0.0)	15 (100.0)
50～59 歳	1 (4.2)	15 (62.5)	8 (33.3)	0 (0.0)	24 (100.0)
60～64 歳	3 (27.3)	4 (36.4)	4 (36.4)	0 (0.0)	11 (100.0)
65～69 歳	0 (0.0)	6 (60.0)	4 (40.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
70 歳以上	2 (16.7)	6 (50.0)	4 (33.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
H19 女性	39 (8.4)	280 (60.2)	136 (29.2)	10 (2.2)	465 (100.0)
H27 女性	45 (8.9)	332 (65.7)	121 (24.0)	7 (1.4)	505 (100.0)
R2 女性	43 (8.8)	310 (63.1)	131 (26.7)	7 (1.4)	491 (100.0)
R7 女性	20 (8.7)	133 (57.8)	77 (33.5)	0 (0.0)	230 (100.0)
18～29 歳	0 (0.0)	10 (45.5)	12 (54.5)	0 (0.0)	22 (100.0)
30～39 歳	6 (10.5)	32 (56.1)	19 (33.3)	0 (0.0)	57 (100.0)
40～49 歳	1 (2.0)	30 (61.2)	18 (36.7)	0 (0.0)	49 (100.0)
50～59 歳	6 (11.8)	28 (54.9)	17 (33.3)	0 (0.0)	51 (100.0)
60～64 歳	2 (12.5)	9 (56.3)	5 (31.2)	0 (0.0)	16 (100.0)
65～69 歳	2 (10.5)	13 (68.4)	4 (21.1)	0 (0.0)	19 (100.0)
70 歳以上	3 (18.8)	11 (68.8)	2 (12.5)	0 (0.0)	16 (100.0)

()内は%

（問2で「あまりしていない/あまりできていない」、または「ほとんどしていない/ほとんどできていない」を選んだ人に）

問 2-1：あなたが食育を実践していない/できていない理由は何ですか。（3MA）

「食育」を実践していない、または、できていない理由の上位3項目は、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事や趣味等）で忙しいから」（49.6%）、
「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（47.2%）、
「「食育」自体についてよく知らないから」（32.5%）であった。「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」は、前回調査（R2年度）の28.4%に対し18.8ポイント増加し、これまでの調査で最も高い結果であった。

<複数回答>

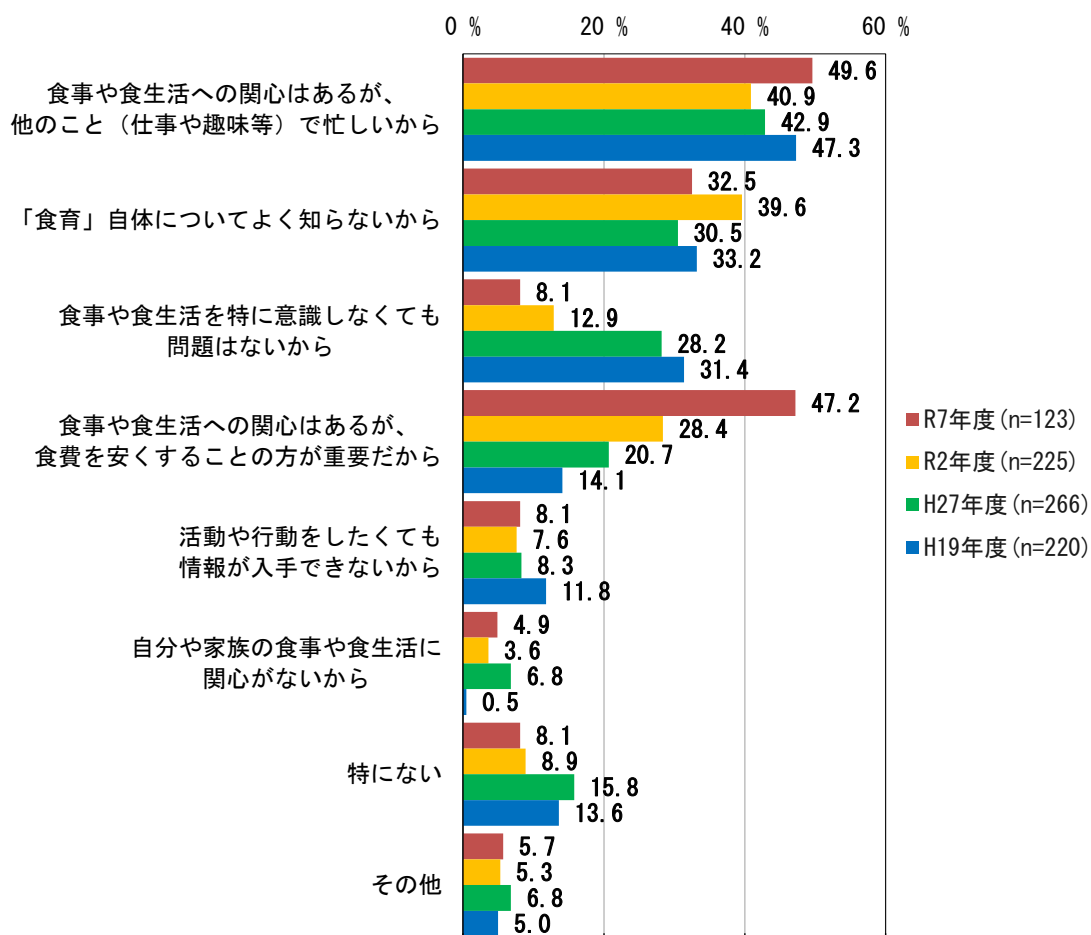


図4 「食育」実践していない / できていない理由 結果推移

3. 食生活について

問3. あなたは朝食を食べていますか。(SA)

(第2次福津市食育推進計画 指標8)

朝食を摂る市民の割合は、食育推進計画基本目標2「健康な暮らしを実感する」の指標の一つである。「朝食を毎日食べる」者の割合は、男性よりも女性の方が高く、男性は60歳代以降で高くなるに従い高くなる傾向であった。若い世代(18～39歳)では男性は56.0%、女性は81.0%でともに目標値に到達していなかった。欠食の状況を見てみると、男性は18歳～59歳まで「朝食をほとんど食べない」割合は約2～3割で、特に40～49歳、50～59歳は共に33.3%で、前回調査から共に20.5ポイントの増加となった。また、女性においては、50～59歳は15.7%、前回調査から9.3ポイントの増加、60～69歳も8.6%で前回から8.3%の増加となった。

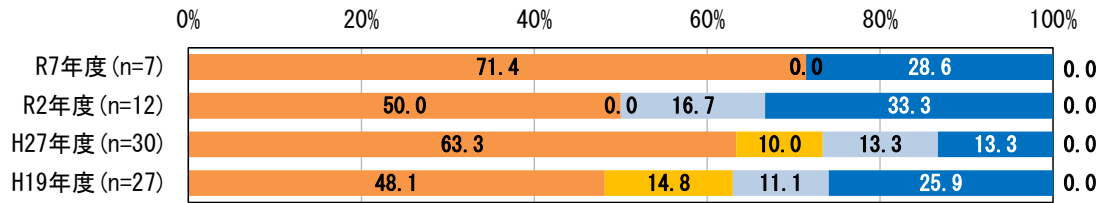
食育推進指標8

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)		調査結果 (R7年度)		目標値 (R7年度)	
8	朝食を毎日食べる若い世代の割合	男性 18-29歳	48.1%	63.3%	50.0%	63.8%	71.4%	56.0%	75%以上
		男性 30-39歳	57.3%	54.2%	68.6%		50.0%		
		女性 18-29歳	67.6%	64.4%	61.0%	75.9%	63.6%	81.0%	85%以上
		女性 30-39歳	86.8	81.7%	82.0%		87.7%		

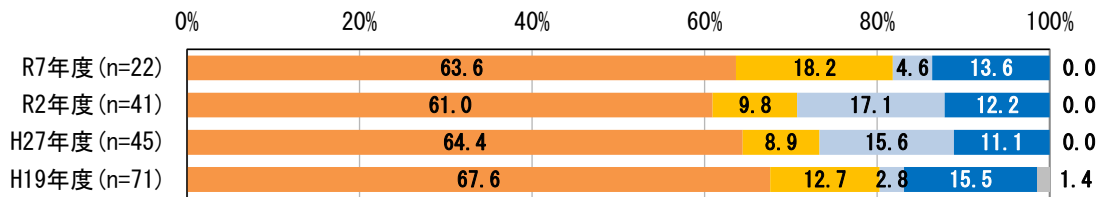
※第2次福津市推進計画の若い世代とは、18-39歳を指す。

<単数回答>

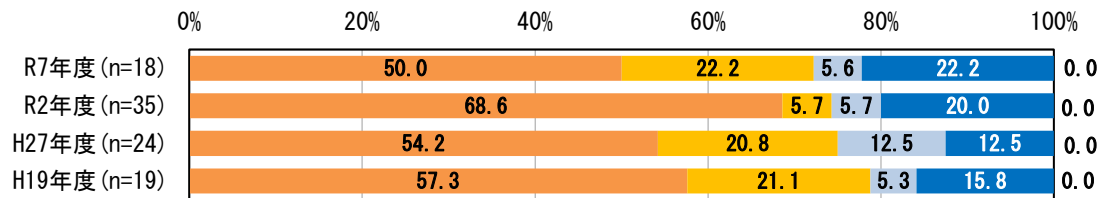
【男性 18-29 歳】



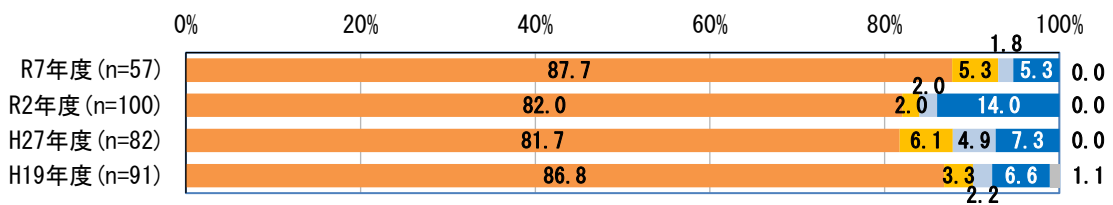
【女性 18-29 歳】



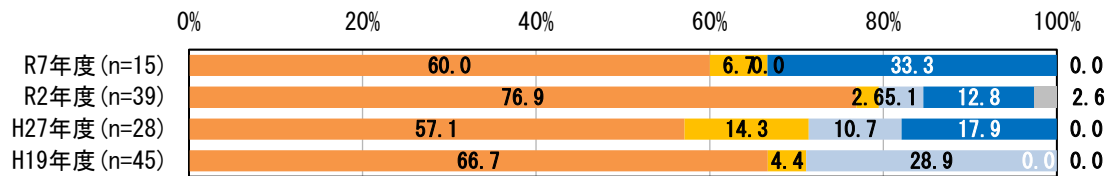
【男性 30-39 歳】



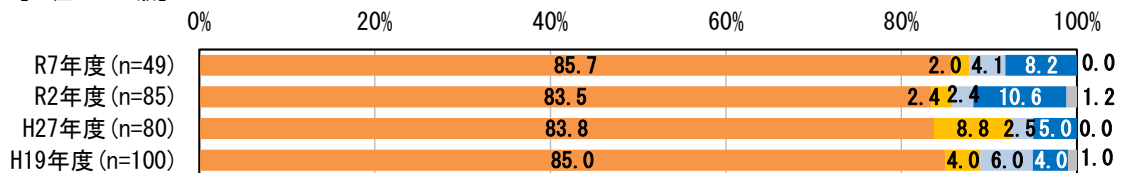
【女性 30-39 歳】



【男性 40-49 歳】



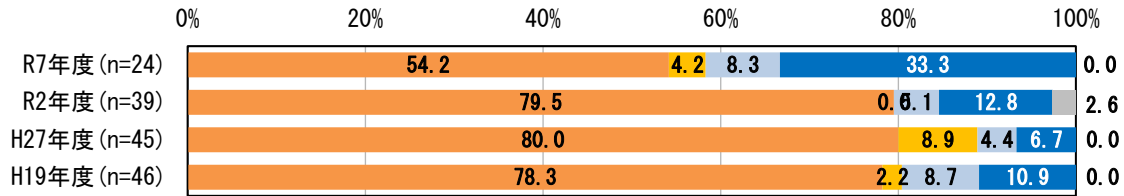
【女性 40-49 歳】



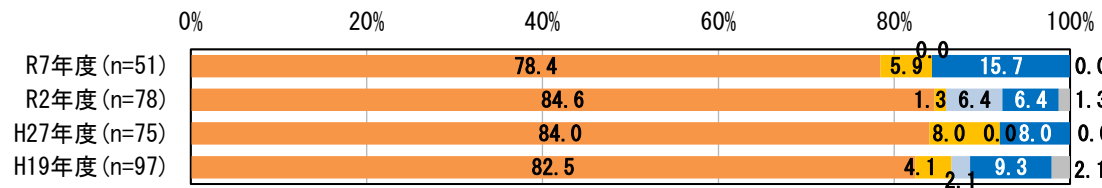
■毎日食べる ■週に4~5日程度食べる ■週に2~3日程度食べる ■ほとんど食べない ■無回答・無効

図 5a 朝食を摂る市民の割合（性別・年齢別） 結果推移

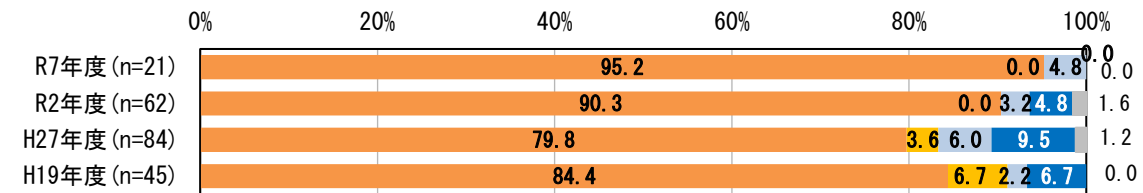
【男性 50-59 歳】



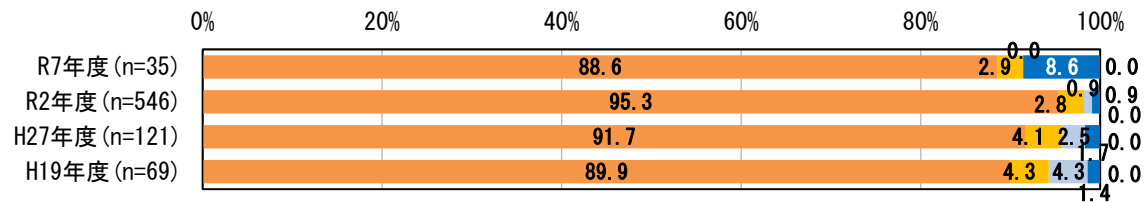
【女性 50-59 歳】



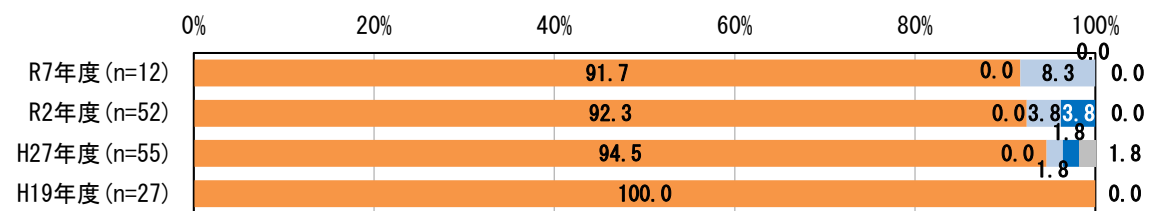
【男性 60-69 歳】



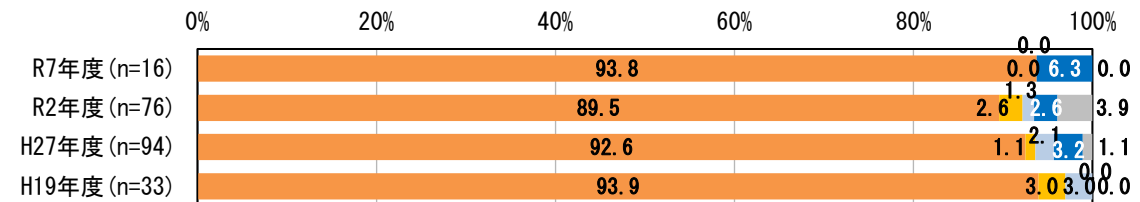
【女性 60-69 歳】



【男性 70 歳以上】



【女性 70 歳以上】



■ 毎日食べる ■ 週に4~5日程度食べる ■ 週に2~3日程度食べる ■ ほとんど食べない ■ 無回答・無効

図 5b 朝食を摂る市民の割合（性別・年齢別） 結果推移

(問3で「ほぼ毎日食べる」以外を選んだ人に)
 問3-1：朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。(SA)

朝食を「ほぼ毎日食べる」と回答した以外の人を対象に朝食を摂らない理由を調査したところ、最も多かったのが「時間がない」であった(33.8%)。次いで「以前から食べる習慣がない」(23.9%)、「食欲がない」(21.1%)であった。

<単数回答>

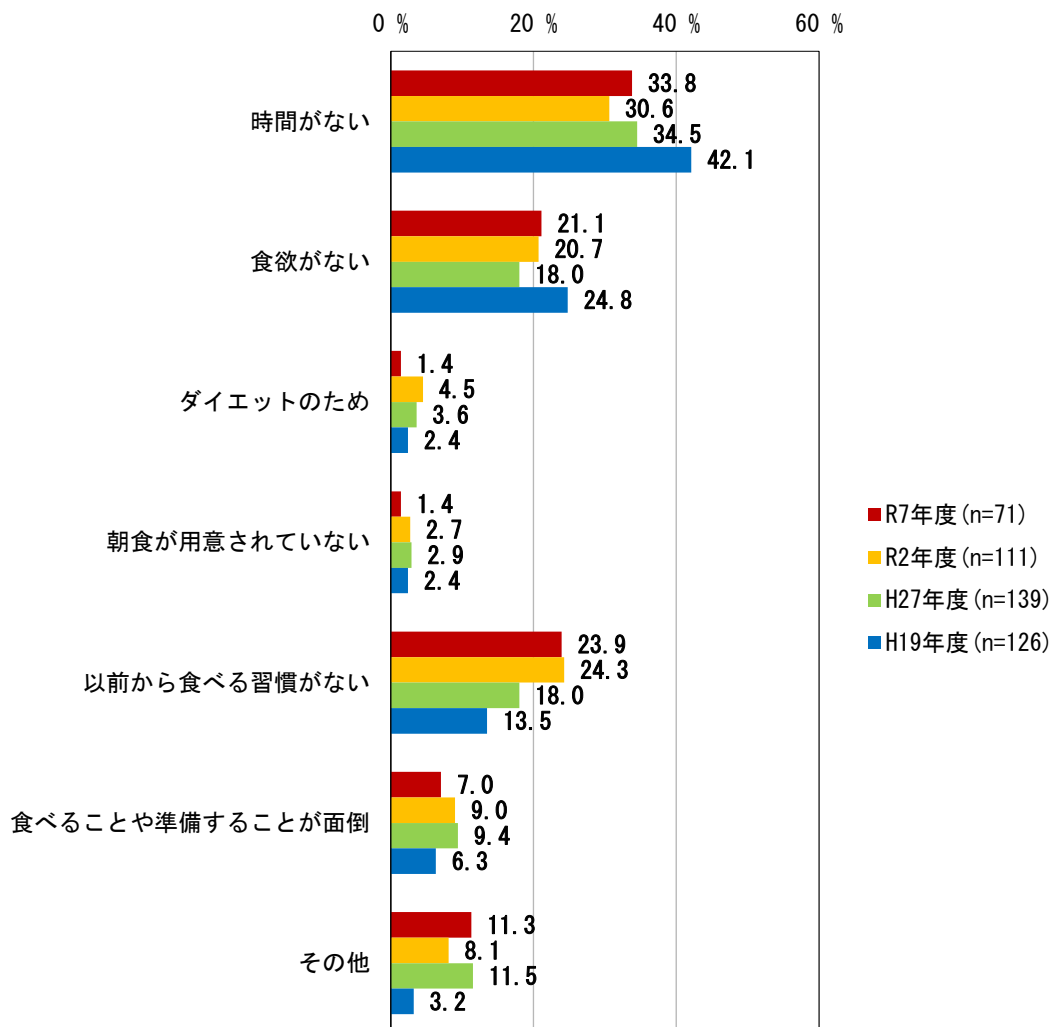


図6 朝食を摂らない理由 結果推移

問 4. あなたは、どのくらいの頻度で家族と一緒に食事をしますか。(SA)

朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数*は、一週間あたり 10.1 回（朝食 4.4 回、夕食 5.7 回の合計）であった。

*共食の回数は、「ほとんど毎日食べる」を週 7 回、「週に 4～5 日食べる」を 4.5 回、「週に 2～3 回食べる」を 2.5 回、「週に 1 日程度食べる」を 1 回とし、それぞれ朝食・夕食ごとに、該当人数を掛け、合計したものを全体数で割り、朝食と夕食の回数を足して週当たりの回数を出している。

■ 朝食 (SA)

「ほぼ毎日」と回答した人の割合は前回の調査から 7.8 ポイント減少した。

<単数回答>

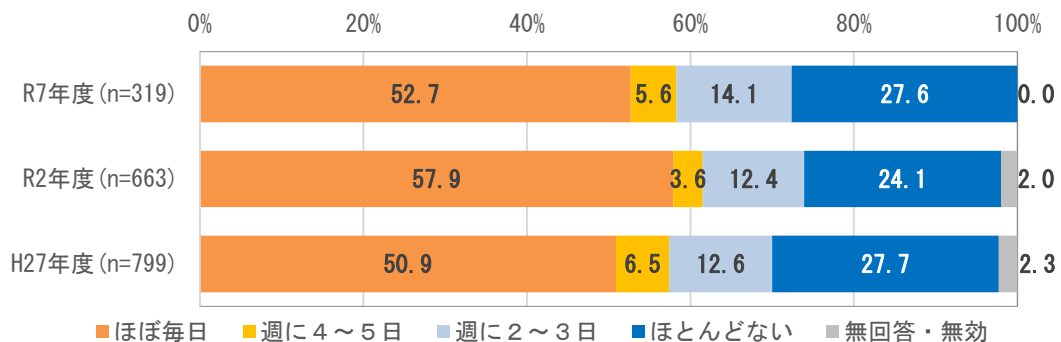


図 7 家族と一緒に食事頻度（朝食） 結果推移

(H27 年度調査の「1 週間に 1 日」の回答を「ほとんど食べない」と回答とした)
(家族と同居している者を対象とした)

■ 夕食 (SA)

「ほぼ毎日」と回答した人の割合は前回調査から 9.9 ポイント減少した。

<単数回答>

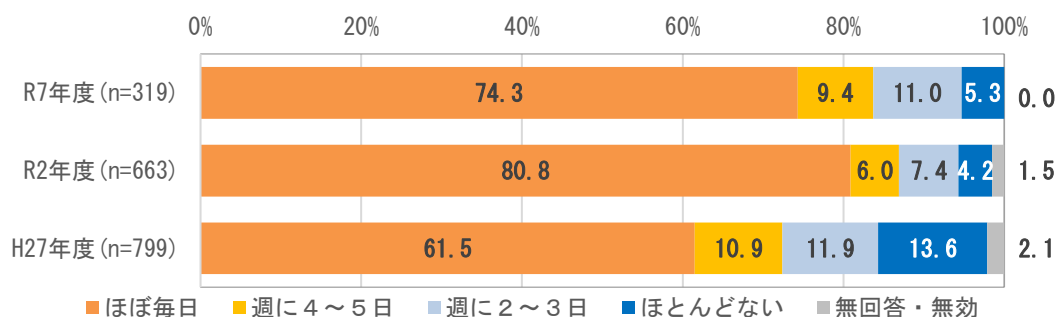


図 8 家族と一緒に食事頻度（夕食） 結果推移

(H27 年度調査の「1 週間に 1 日」の回答を「ほとんど食べない」と回答とした)
(家族と同居している者を対象とした)

食育推進指標 14

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
14	朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	—	9.4 回	11.1 回	10.1 回	週に 10 回以上

問 5. あなたは、食事が楽しいですか。(SA)

※R2 年度調査まで「あなたは、食事を楽しみにしていますか」

食事が「楽しい」と答えた人は 83.1%で、前回調査とほぼ同じ結果であった。

<単数回答>

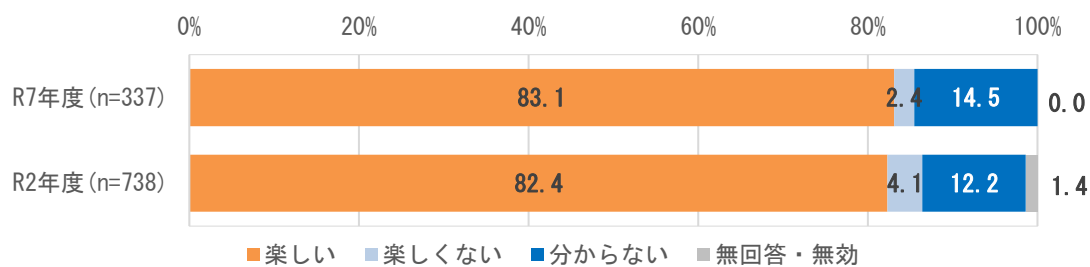


図 9 食事を楽しみにしているか

問 6. あなたは、食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。(SA) (第2次福津市食育推進計画 指標13)

食事のあいさつは、食育推進計画基本目標3「豊かな心を育む」の基本方針(1)「食への感謝の気持ちを育てる」の指標である。「必ずしている」と回答した人の割合は55.5%であった。前回調査では48.1%であり、7.4ポイントの増加があった。性別にみると「必ずしている」と回答した人の割合は女性の方が多く58.3%、男性は48.5%であった。前回調査から男性は7.2ポイント、女性は6.6ポイント増加した。

<単数回答>

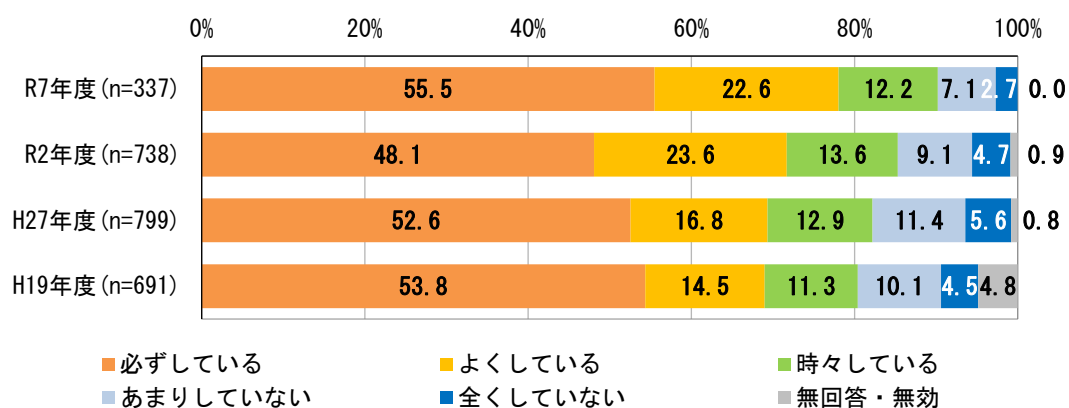


図10 食事の際のあいさつ 経年比較

食育推進指標13

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
13	「いただきます」「ごちそうさま」を必ず言う市民の割合	54.8%	52.6%	48.1%	55.5%	70%

表3 食事の際のあいさつ頻度：性別・年代別の比較

	必ずしている	よくしている/ 時々している	あまりしていない/ 全くしていない	不明・無回答	計
H27 男性	115 (41.4)	85 (30.6)	74 (26.6)	4 (1.4)	278 (100.0)
R2 男性	99 (41.3)	87 (36.3)	51 (21.3)	3 (1.3)	240 (100.0)
R7 男性	47 (48.5)	35 (36.1)	15 (15.5)	0 (0.0)	97 (100.0)
18～29 歳	5 (71.4)	2 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)
30～39 歳	10 (55.6)	5 (27.8)	3 (16.7)	0 (0.0)	18 (100.0)
40～49 歳	6 (40.0)	7 (46.7)	2 (13.3)	0 (0.0)	15 (100.0)
50～59 歳	13 (54.2)	5 (20.8)	6 (25.0)	0 (0.0)	24 (100.0)
60～64 歳	4 (36.4)	5 (45.4)	2 (18.2)	0 (0.0)	11 (100.0)
65～69 歳	4 (40.0)	6 (60.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
70 歳以上	5 (41.7)	5 (41.7)	2 (16.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
H27 女性	298 (59.0)	148 (29.3)	58 (11.5)	1 (0.2)	505 (100.0)
R2 女性	254 (51.7)	183 (37.3)	50 (10.1)	4 (0.8)	491 (100.0)
R7 女性	134 (58.3)	79 (34.4)	17 (7.4)	0 (0.0)	230 (100.0)
18～29 歳	13 (59.1)	7 (31.8)	2 (9.1)	0 (0.0)	22 (100.0)
30～39 歳	37 (64.9)	19 (33.3)	1 (1.8)	0 (0.0)	57 (100.0)
40～49 歳	25 (51.0)	20 (40.8)	4 (8.2)	0 (0.0)	49 (100.0)
50～59 歳	31 (60.8)	15 (29.4)	5 (9.8)	0 (0.0)	51 (100.0)
60～64 歳	10 (62.5)	5 (31.3)	1 (6.3)	0 (0.0)	16 (100.0)
65～69 歳	8 (42.1)	8 (42.1)	3 (15.8)	0 (0.0)	19 (100.0)
70 歳以上	10 (62.5)	5 (31.3)	1 (6.3)	0 (0.0)	16 (100.0)

() 内は%

問 7. あなたは、ゆっくりよくかんで食べていますか。(SA)

回答者のうち 50.2%の人が「ゆっくりよくかんで食べている」または「どちらかといえば、ゆっくりよくかんで食べている」と回答した。全国調査の 47.6%と比べて、2.6 ポイント高い結果であった。また高齢者（65 歳以上）は 57.7%であった。

<単数回答>

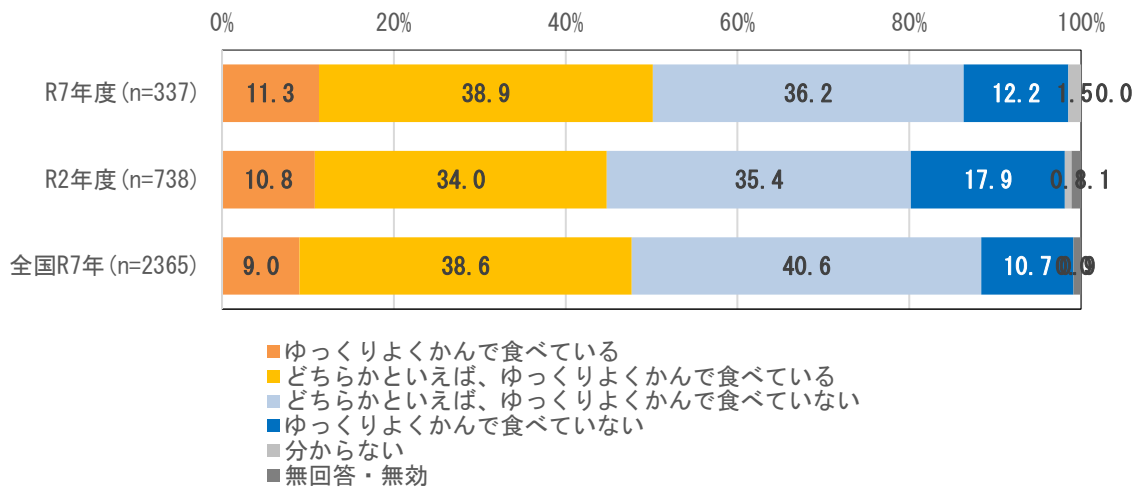


図 11-1 ゆっくりよく噛んで食べる人の割合 全国調査との比較
(全国調査は「食に関する意識調査」農林水産省の結果)

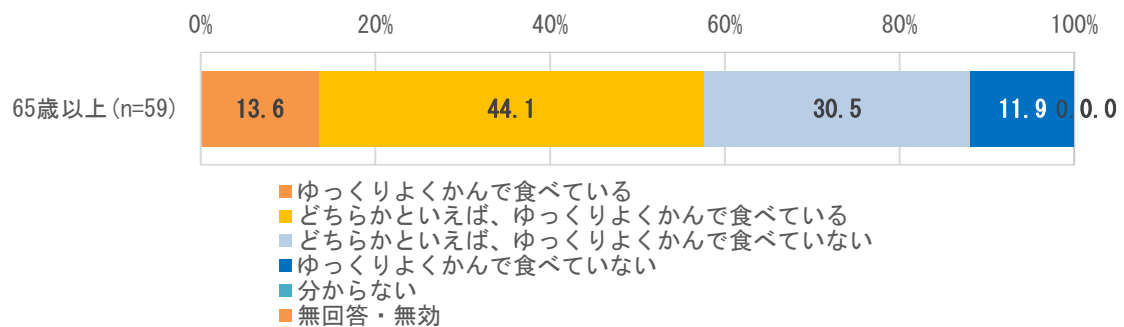


図 11-2 ゆっくりよく噛んで食べる人の割合 (65 歳以上)

食育推進指標 12

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
12	よく噛んで食べることができる高齢者の割合	—	74.0%	—	57.7%	74.0%

※「どちらかといえば、ゆっくりよくかんで食べている」を含む割合

問 8. あなたは、主食（ご飯・パン・めん等）・主菜（肉・魚・卵・大豆製品等を使ったメインの料理）・副菜（野菜・きのこ・いも・海藻等を使った小鉢、小皿の料理）を3つそろえて食べることが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。(SA)

(第2次福津市食育推進計画 指標5, 10)

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をとることは、食育推進計画基本目標2「健康な暮らしを実感する」の基本方針(1)「若い世代が健康や食への意識をもつ」および(3)「健康長寿につながる健康的な食習慣を身に付ける」の指標である。市民全体では36.5%が「ほぼ毎日」主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日2回以上あると回答した。前回調査では、47.4%であり10.9ポイント減少した。また、若い世代(18～39歳)は、「ほぼ毎日」が21.7%で、前回調査では、41.0%であり19.3ポイント減少した。

<単数回答>

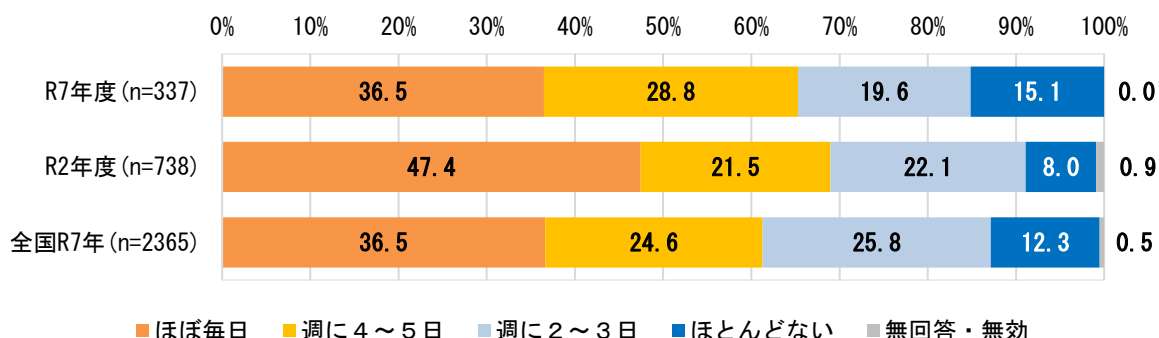


図12 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の摂取頻度 結果推移
(全国調査は「食に関する意識調査」農林水産省の結果)

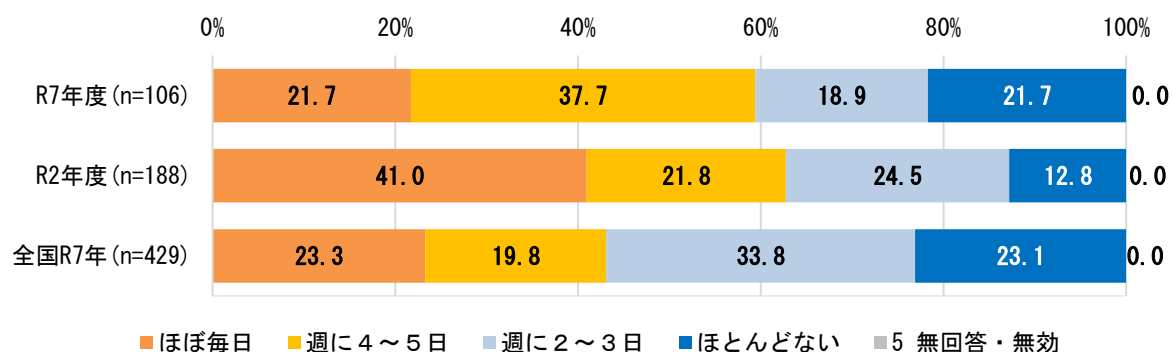


図13 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の摂取頻度(若い世代) 結果推移
(全国調査は「食に関する意識調査」農林水産省の結果)

(若い世代は18～39歳であるが、全国調査は20～39歳の結果を参照した)

食育推進指標 5, 10

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
5	主食・主菜・副菜を組み合わせ た食事をと るよう心がけて いる人の割合	—	—	41.0%	21.7%	60%
10	若い世代 18-39歳	—	—	47.4%	36.5%	85%以上
	市民	—	—	47.4%	36.5%	85%以上

※第2次福津市推進計画の若い世代とは、18-39歳を指す

※主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を「ほぼ毎日」とする人の割合

問9. あなたは、毎日野菜を何皿(品)程度食べていますか。(SA)

※R2年度調査まで「あなたは、毎食野菜を食べることを心がけていますか。」

(第2次福津市食育推進計画 指標4)

野菜を毎食食べることを心がけることは、食育推進計画基本目標2「健康な暮らしを実感する」の基本方針(1)「若い世代が健康や食への意識をもつ」の指標である。全対象者(総数)では、29.1%が「3～4皿」、5.9%が「5皿以上」と回答した。若い世代(18～39歳)については、25.5%が「3～4皿」、2.8%が「5皿以上」であった。

<単数回答>

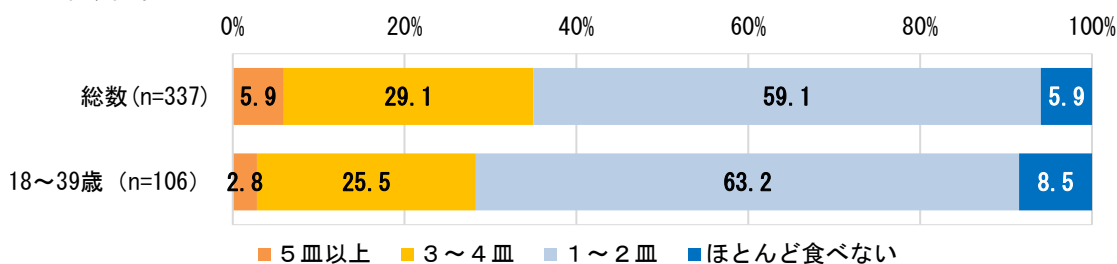


図14 野菜料理の摂取量(皿数) (全世代・若い世代)

食育推進指標 13

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
13	野菜を毎食食べることを心がけている若い世代の割合	—	—	41.5%	28.3%	60%

※第2次福津市推進計画の若い世代とは、18-39歳を指す

※R7年度では、毎食であるかは分からないが、1日3皿以上食べている者の割合を示す

問 10. あたは、生活習慣病予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持に気をつけた食生活を実践していますか。(SA)

(第2次福津市食育推進計画 指標 11)

適正体重を維持することは、食育推進計画基本目標2「健康な暮らしを実感する」の基本方針(3)「健康長寿につながる健康的な食習慣を身に付ける」の指標である。

「適正体重を維持している市民の割合」を福津市特定健診受診者に対する割合で評価する。今回調査では、食生活の実践について、「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答した人は57.6%であり、前回調査の61.3%から3.7ポイント減少した。

<単数回答>

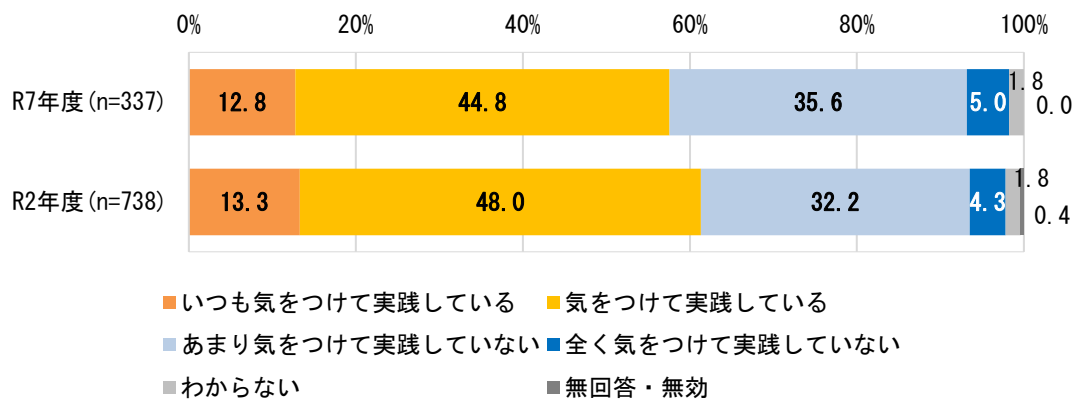


図 15 適正体重の維持に気をつけた食生活の実践度 結果推移

問 11. あたは、ふだんから減塩に気をつけた食生活を実践していますか。 (SA)
 (第 2 次福津市食育推進計画 指標 9)

減塩を心がけることは、食育推進計画基本目標 2「健康な暮らしを実感する」の基本方針 (3)「健康長寿につながる健康的な食習慣を身に付ける」の指標である。今回調査では、「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答した人は 48.4%で、前回調査の 49.3%から 0.9 ポイント減少した。

<単数回答>

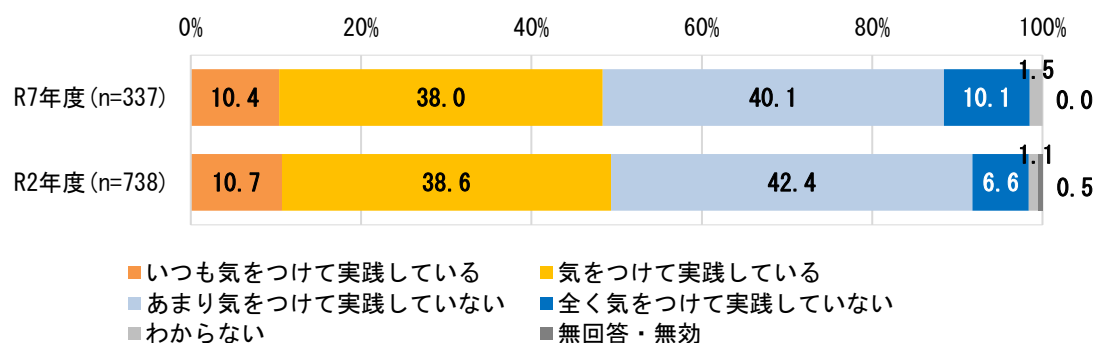


図 16 減塩に気をつけている食生活の実践度 結果推移

食育推進指標 9

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
9	減塩を心がけているの割合	—	—	49.3%	48.4%	75%以上

(問11で「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」を選んだ人に)

問11-1：具体的にどのようなことに気をつけていますか。(MA)

減塩に関する具体的な取り組みは、「野菜をしっかりとるようにしている」が最も多く(62.6%)、「めん類の汁はできるだけ残している」(57.1%)、「だしを利用したり、調味料を少なめに使う」(54.6%)、「味のついている料理に、食卓で追加の調味料をかけない」(52.8%)で、半数以上の方が取り組んでいた。

<複数回答>

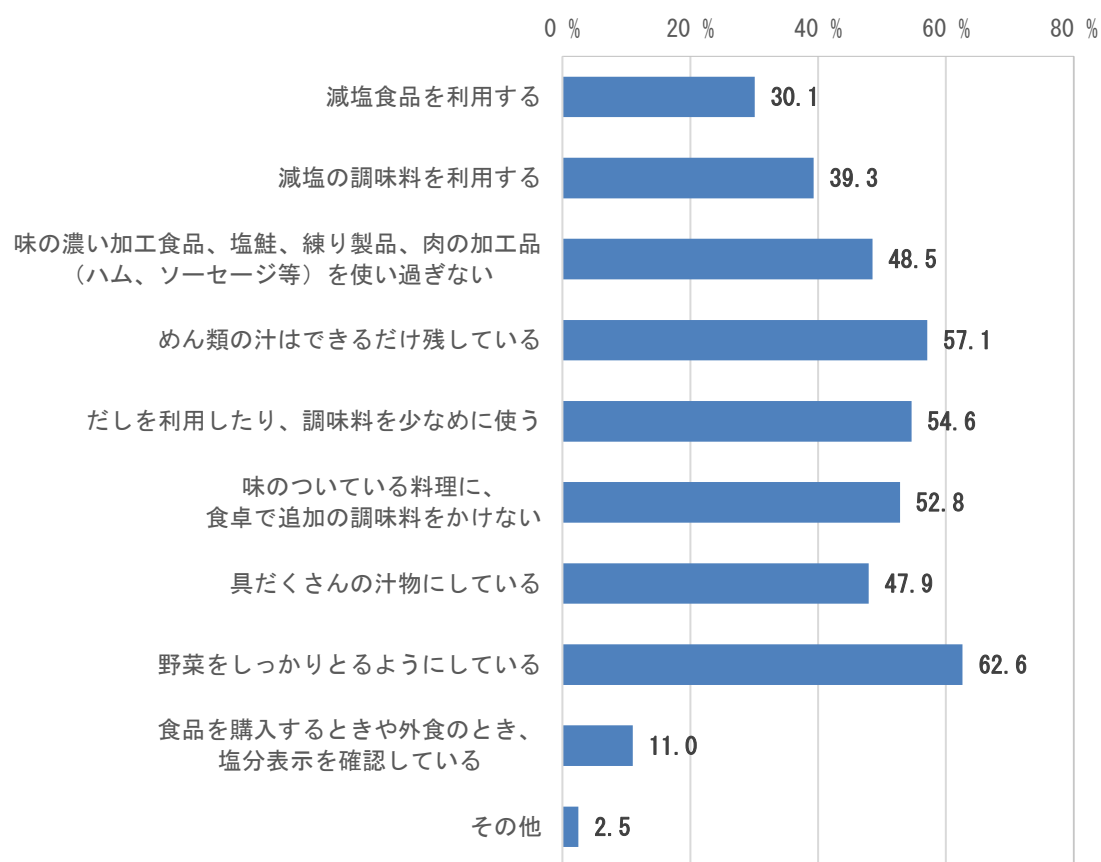


図17 減塩に取り組んでいる内容 (n=163)

問 12. あなたの世帯では、過去 1 年間に、家族が必要とする食料（菓子等の嗜好品は除く）を経済的な理由で購入できないことがありましたか。（SA）

経済的な理由で食料が購入できないことが「あった」と回答した人の割合は 12.8%で、女性が 15.2%で男性 5.2%に比べて 10.0 ポイント高かった。年代別の比較では、30～39 歳が 18.4%と最も高かった。

<単数回答>

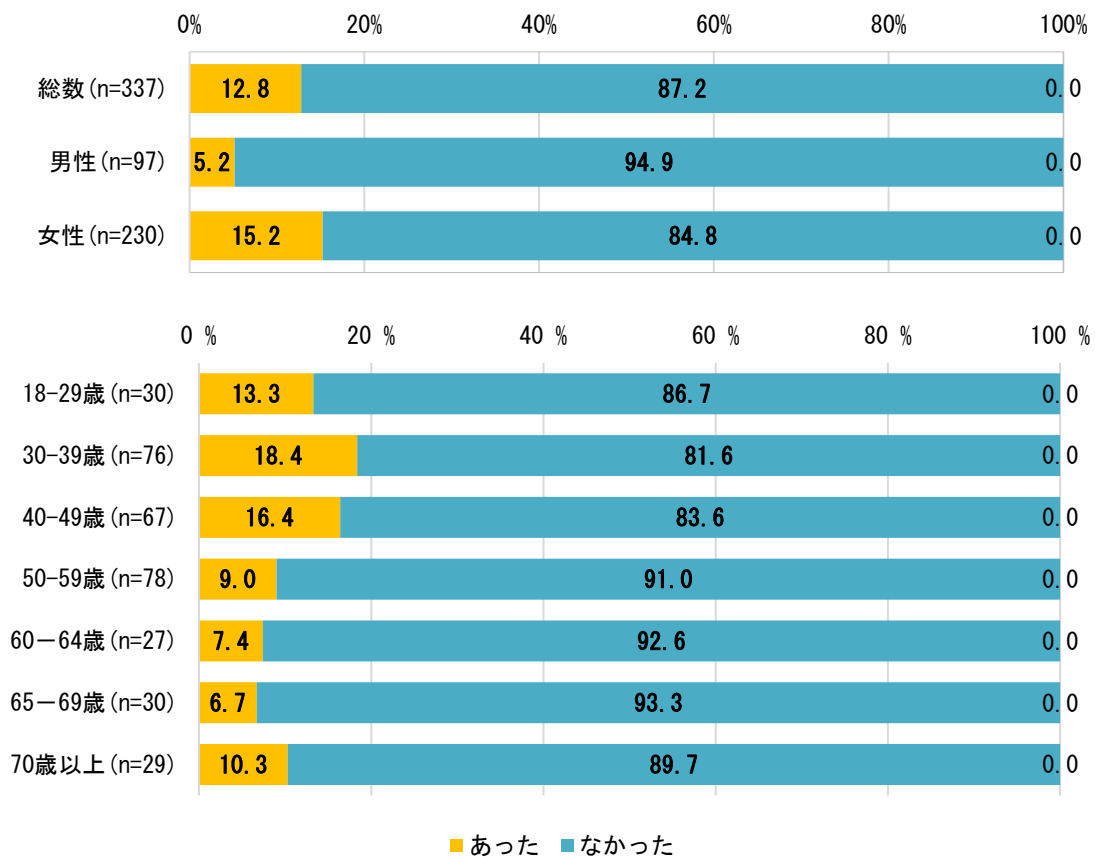


図 18 過去 1 年間に経済的理由で食料を購入できなかった経験 性別・年代比較

問 13. あなたは、フードバンクがあれば利用したいと思いますか。(SA)

フードバンクを「利用したい」と回答した人の割合は 43.3%で、女性が 46.1%で男性 37.1%に比べて 9.0 ポイント高かった。年代別の比較では、18～64 歳が半数近い割合で「利用したい」と回答したが、65 歳以上では約 3 割であった。また、半数近くの方が利用に関して「わからない」と回答した。

<単数回答>

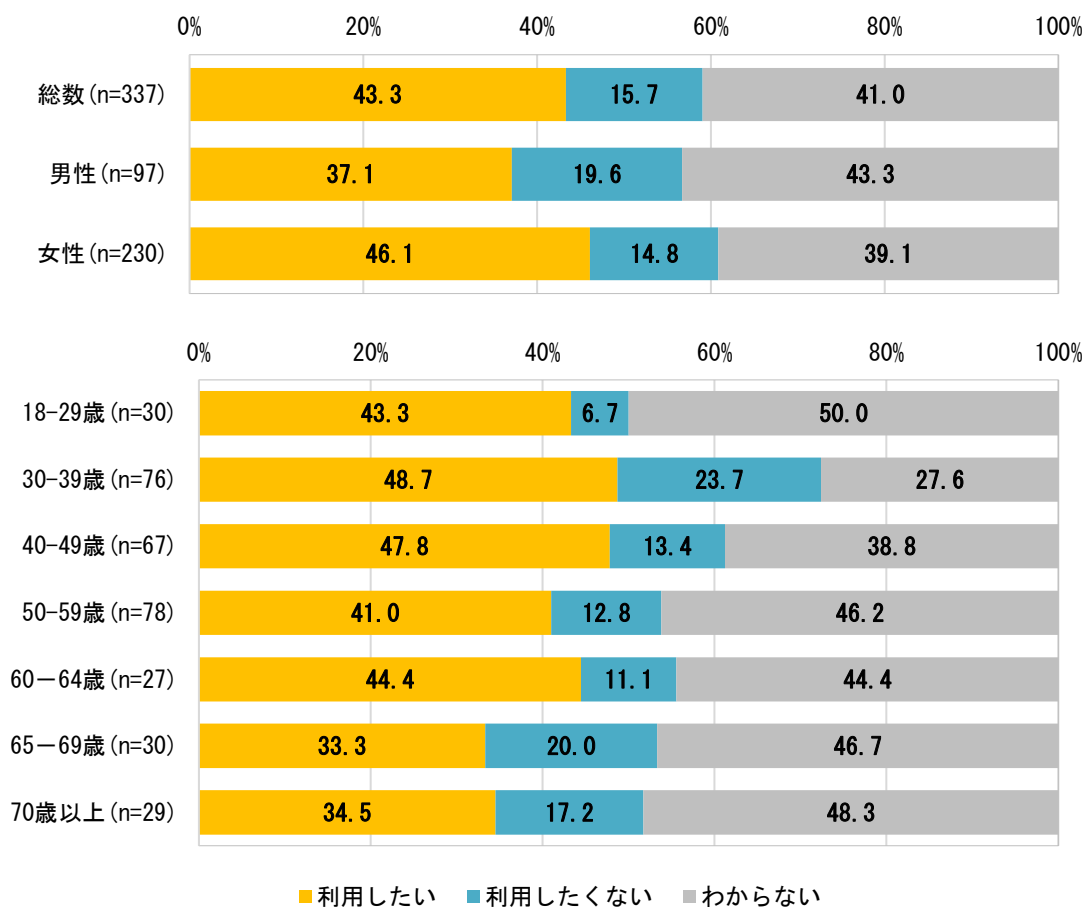


図 19 フードバンクの利用意思 性別・年代比較

問 14. あなたは、子ども食堂のような無料または低価格で食事をとることができる場所や地域での食事回答の機会があれば利用したいと思いますか。(SA)

子ども食堂のような無料や低価格の食事の場を「利用したい」と回答した人の割合は31.2%で、女性が33.9%で男性25.8%に比べて8.1ポイント高かった。年代別の比較では、18～29歳の43.3%、30～39歳の48.7%が「利用したい」と回答し、若い世代の利用意向が高かった。

<単数回答>

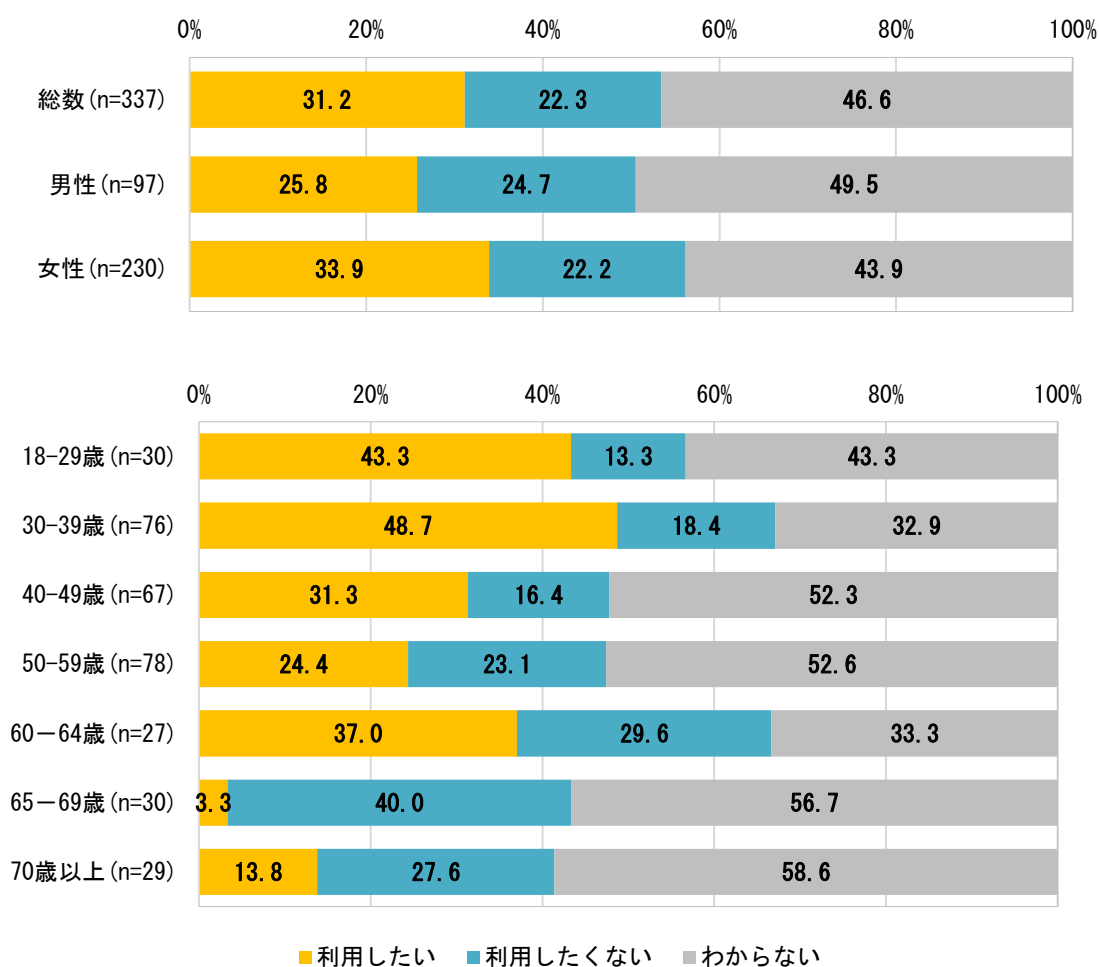


図 20 子ども食堂等の無料・低価格な食事の場の利用意思 性別・年代比較

4. 食に関する活動について

問 15. あなたは、食育の推進に関する活動に機会があれば参加してみたいと思いますか (SA)

「参加してみたい」と回答した人の割合は42.4%で、前回調査より6.8ポイント増加となった。

<単数回答>

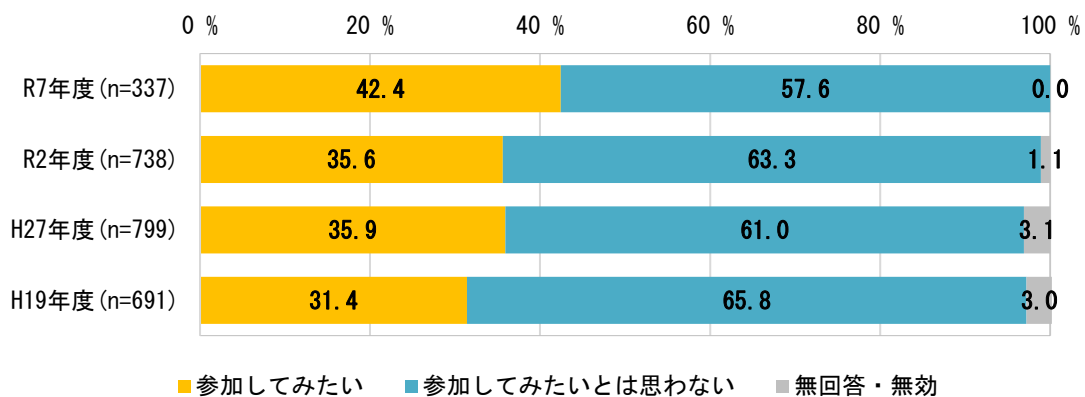


図 21 食育推進に関する活動への参加意思 結果推移

(問 15 で「参加してみたい」を選んだ人に)

問 15-1. あなたは、どのような食育の推進に関する活動に参加してみたいと思いますか (3MA)

最も参加してみたい食育推進に関する活動は、「食生活の改善に関する項目」(43.4%)が最も多かった。次いで、「郷土料理、伝統料理などの食文化継承活動」(42.0%)、「生活習慣病予防などのための料理教室」(39.9%)であった。「農漁業体験などに関する活動」は32.2%であり、初回調査時(18.9%)から、13.3ポイント増加していた。

<複数回答>

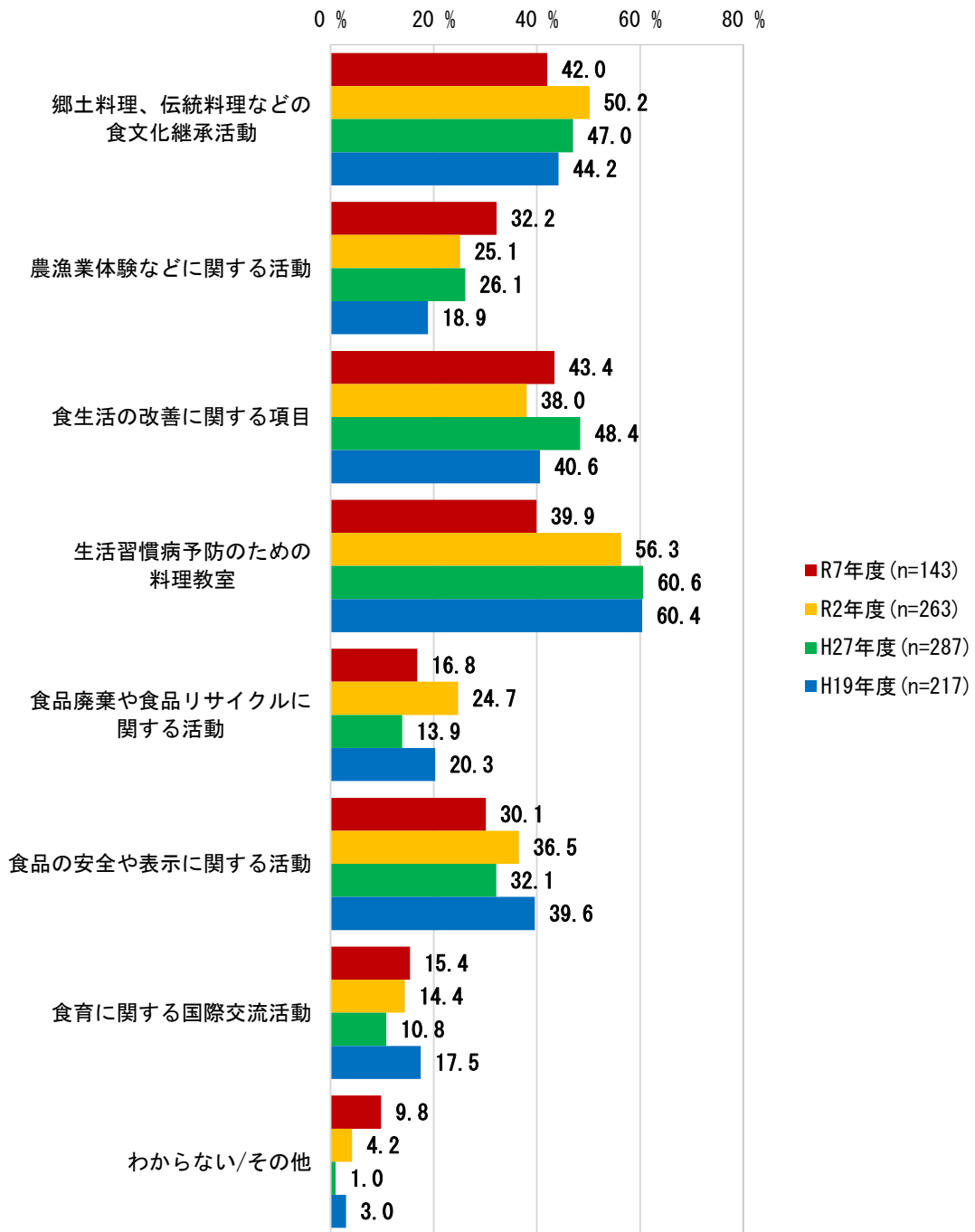


図 22 参加してみたい食育推進に関する活動の種類 結果推移

問 16. あなたが、これまでに参加した食育推進イベントや活動がありますか。
 (S A) (第2次福津市食育推進計画 指標 20)

食育推進イベントに参加することは、食育推進計画基本目標5「連携・共働で食育を進める」の基本方針(1)「行政・学校・ボランティア・関係団体の連携を強める」の指標である。食育イベント・活動への参加状況を尋ねた結果、「はい(参加した)」と回答した人は全対象者の13.1%であった。H27年度調査から少しずつ増加している。

<単数回答>

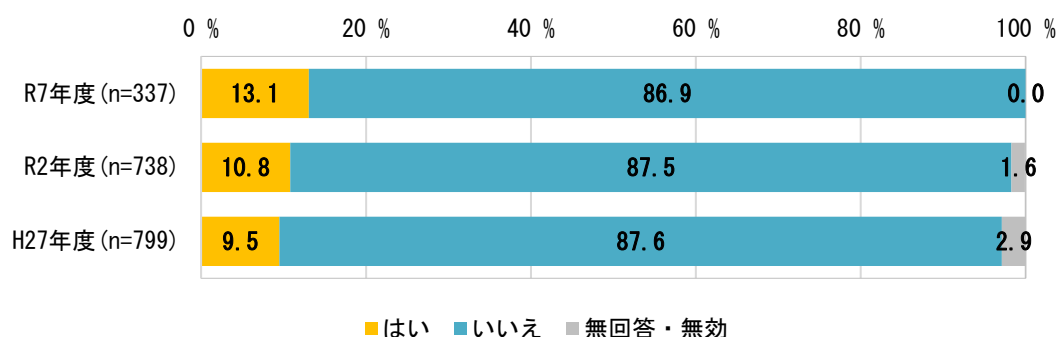


図 23 食育イベントや活動への参加の有無 結果推移

食育推進指標 20

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
20	食育イベントや活動に参加した市民の割合	—	9.5%	10.8%	13.1%	20%

※平成27年度までは、過去1年間の参加状況

(問 16 で「はい (参加した)」を選んだ人に)
 問 16-1. それはどんな活動ですか (MA)

イベントや活動に参加した人に対して(n=44)、どのような活動に参加したのかを尋ねたところ、「食生活の改善に関する活動」が最も多く(31.8%)、続いて「生活習慣病予防などのための料理教室」(22.7%)であった。

<複数回答>

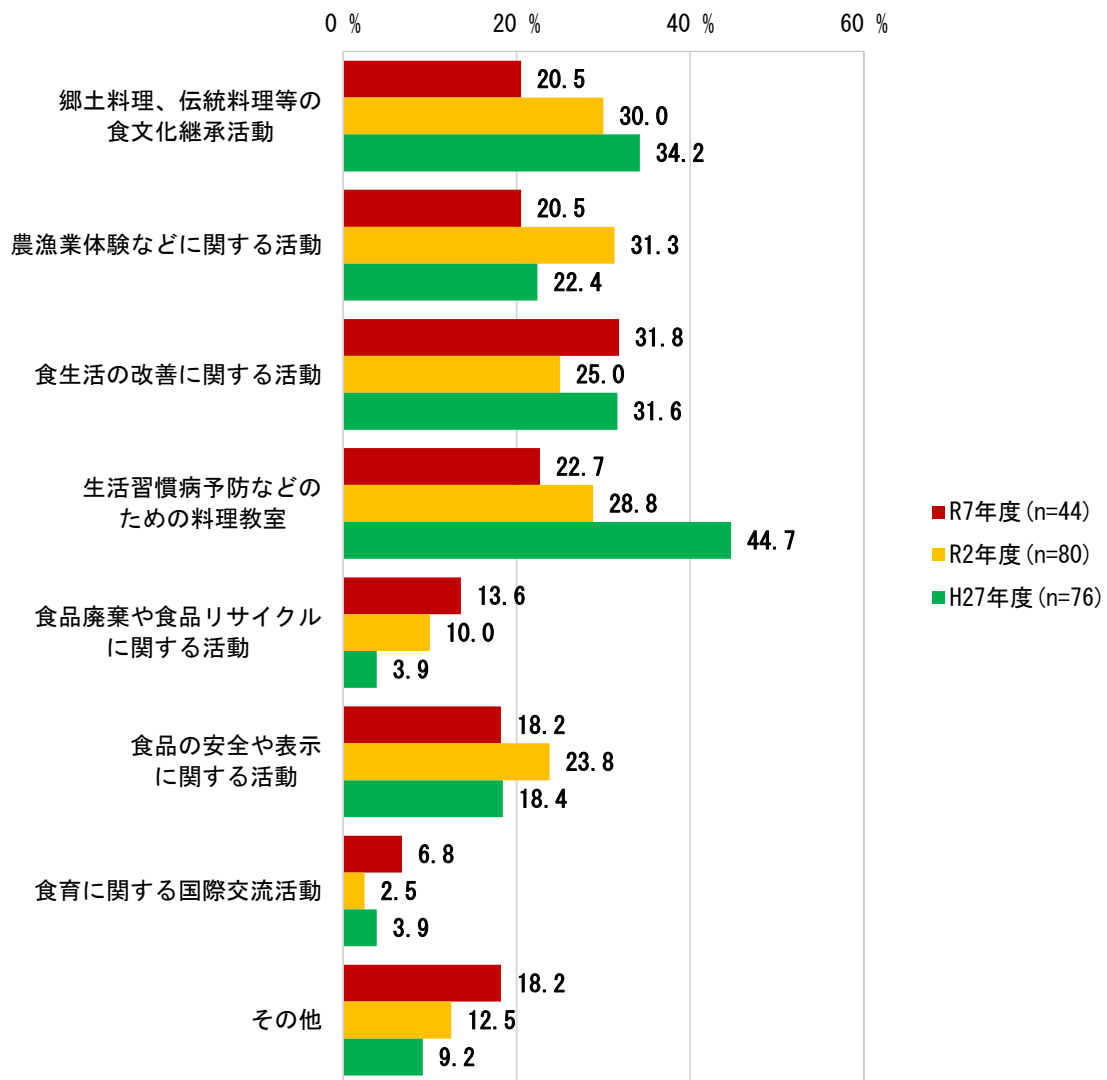


図 24 参加した食育イベントや活動の種類 結果推移

(問 16 で「いいえ」を選んだ人に)
 問 16-2. 参加しなかった、または参加できなかった理由は何ですか。(MA)

食育に関するイベントや活動に実際には参加していないと回答した人(n=293)に対して、「参加しなかった/できなかった」理由を尋ねた。「イベントや活動があることを知らなかった」との回答が最も多く 54.6%であり、年々割合が高くなっている。「仕事や他の用で忙しかった」(43.7%)は前回と同じく第2位であった。第3位は「イベントや活動に興味がないから」(19.5%)であり、「一人では参加しにくかった」(17.1%)で前回調査より共に減少した。

<複数回答>

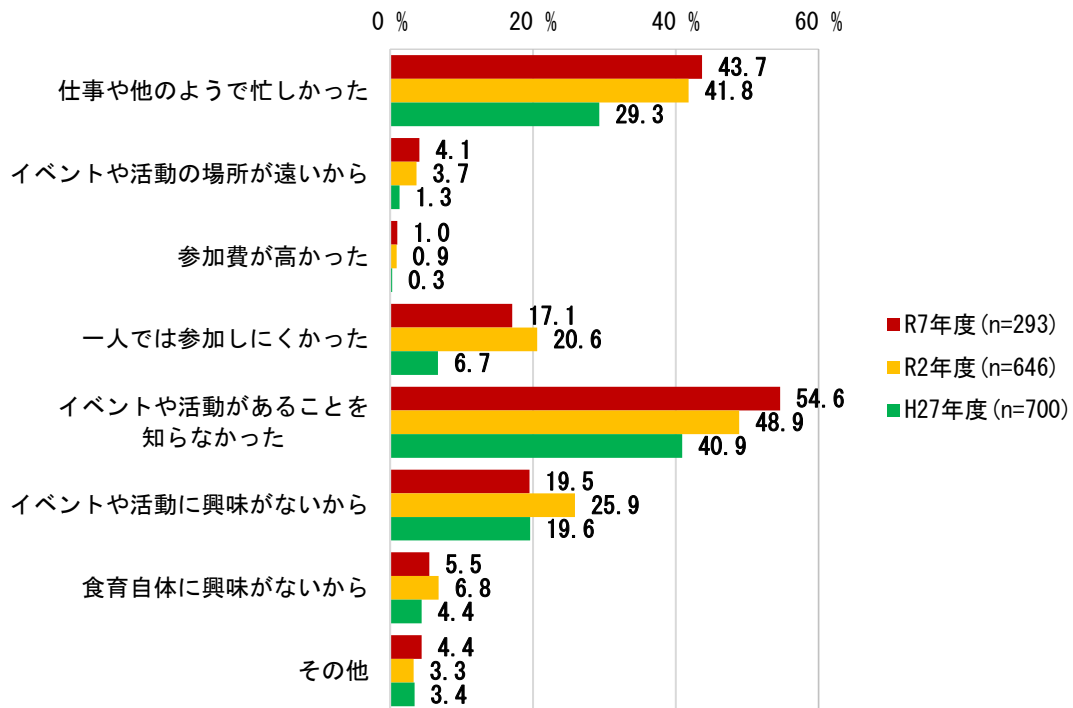


図 25 参加した食育イベントや活動へ参加しなかった/できなかった理由 結果推移

食育推進指標 21

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
21	食育イベントや活動が開催されることを知らずに参加できなかった市民の割合	—	37%	42.8%	47.5%	30%

※全調査回答者に対する割合

問 17. あなたは、生産者と交流体験をしたことがありますか。（SA）
 （第 2 次福津市食育推進計画 指標 1）

生産者と交流することは、食育推進計画基本目標 1「元気な地域をつくる」の基本方針（1）「食を通して地域を知る」の指標である。生産者との交流体験の経験のある人は 28.5%で前回調査から 8.9 ポイント増加した。

<単数回答>

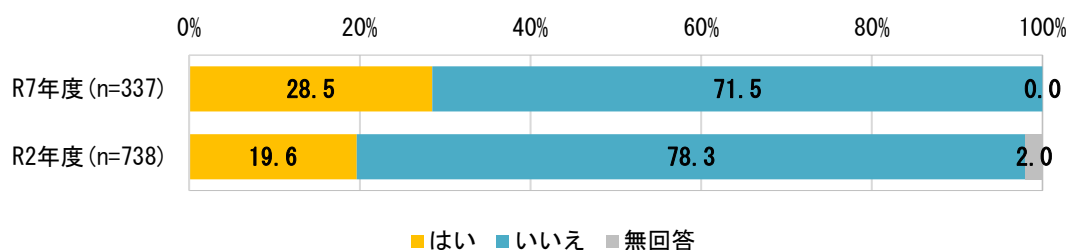


図 26 生産者との交流 経年推移

食育推進指標 1

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
1	生産者と交流体験をしたことのある市民の割合	—	—	19.6%	28.5%	50%

問 18. あなたは、「食品ロス」という問題を知っていますか。（SA）

食品ロスを「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した人の合計の割合は 93.8%であり、前回調査から 5.1 ポイント増加した。

<単数回答>

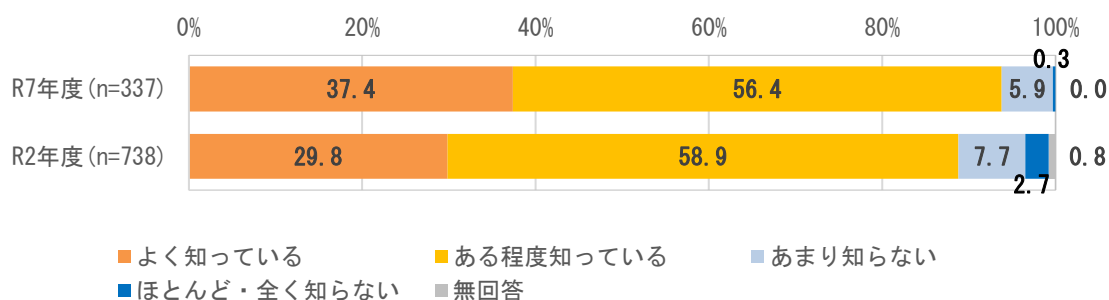


図 27 食品ロスの認知度 経年推移

(問 18 で「よく知っている/ある程度知っている/あまり知らない」を選んだ人に)
 問 18-1. あなたは、「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることはありますか。(MA) (第 2 次福津市食育推進計画 指標 19)

食べ物を無駄にしないように取り組むことは、食育推進計画基本目標 4「安全・安心な環境をつくる」の基本方針 (2) 「地域の自然環境をみんなで守る」の指標である。「残さず食べる」が最も多く (75.0%)、続いて「冷凍保存を活用する」が第 2 位 (68.2%) で、第 3 位が「賞味期限を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」(66.7%) であった。

<複数回答>

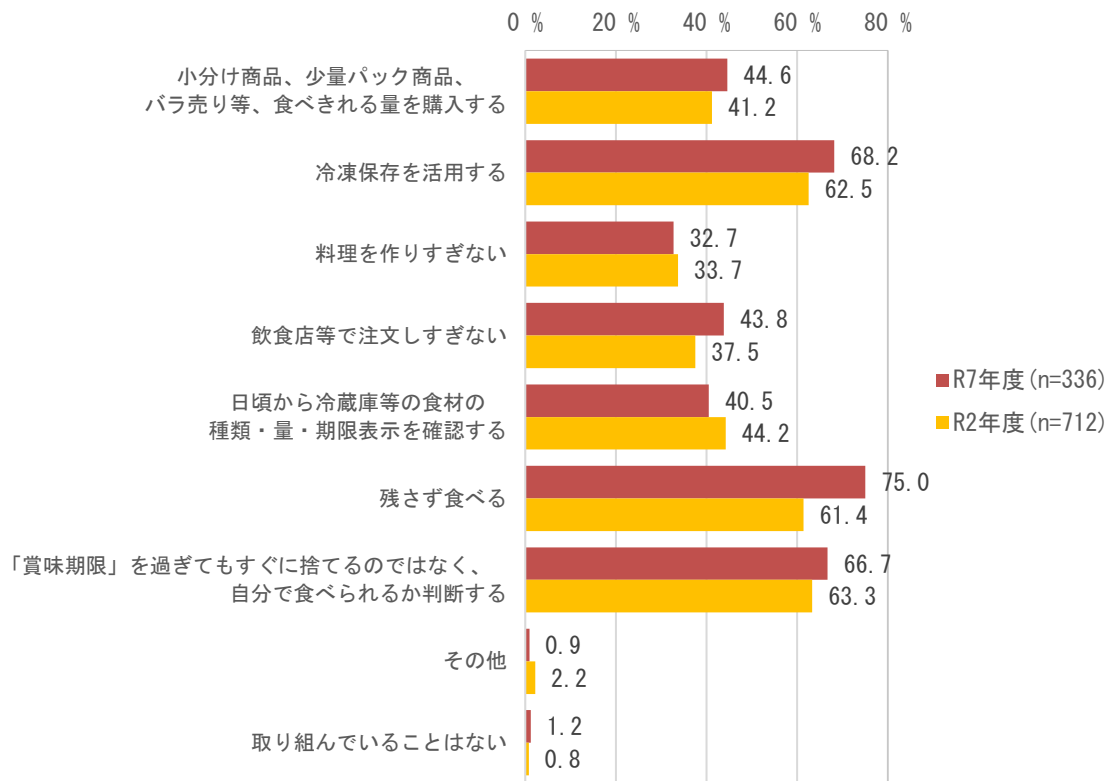


図 28 食品ロスの取組内容 経年推移

食育推進指標 19

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
19	食べ物を無駄にしないよう取り組んでいる市民の割合	—	—	99.2%	98.8%	80%以上

※「取り組んでいることはない」以外とした

問 19. あなたは、災害時に備えて飲料水や食品を備蓄していますか。(SA)

(第 2 次福津市食育推進計画 指標 19)

災害時の食料備蓄について、「3 日以上備蓄している」人の割合は 16.6%で、男性 16.5%で、女性が 16.5%であった。年代別の比較では、50～59 歳が 9.0%と最も低かったが、年齢が高くなるにつれ備蓄状況が高くなった。一方で、約 1/3 (35.6%) が「ほとんど・全く備蓄していない」ことがわかった。

<単数回答>

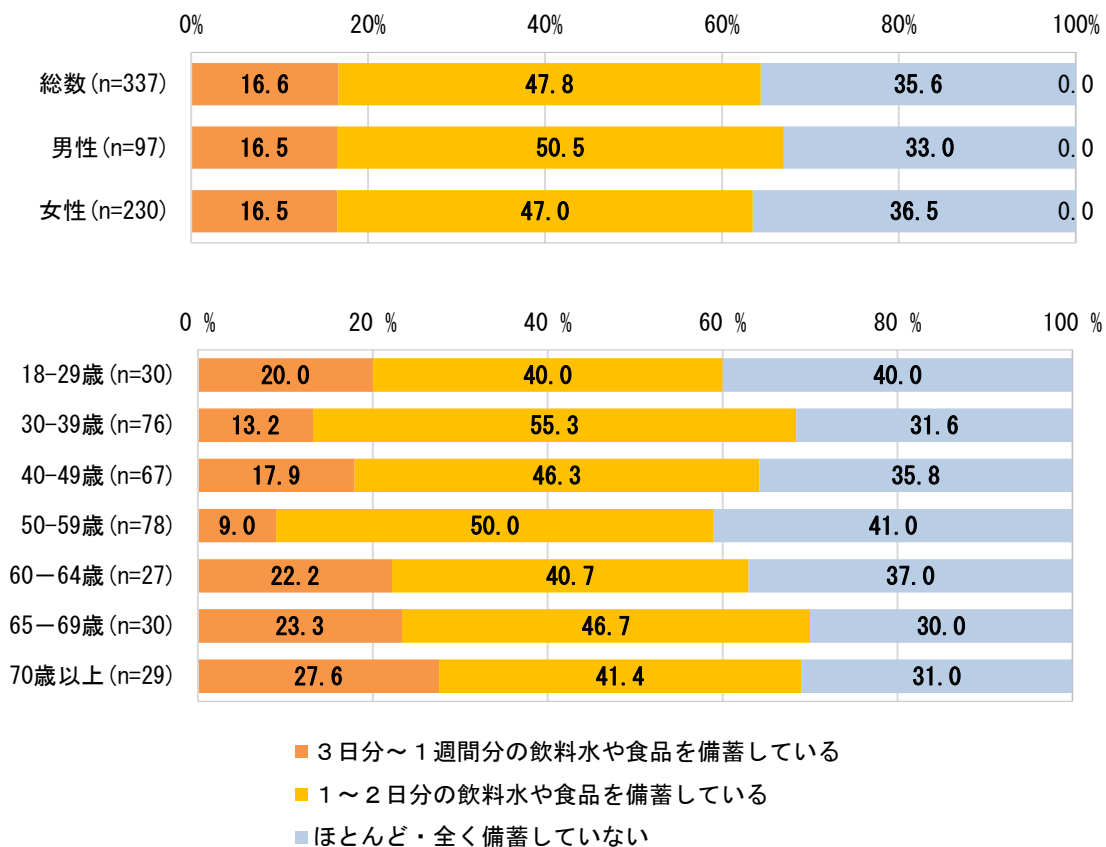


図 29 子ども食堂等の無料・低価格な食事の場の利用意思 性別・年代比較

問 20. あなたは、食品を購入する際に食品表示を確認しますか。(SA)

(第 2 次福津市食育推進計画 指標 18)

食品を購入する際に食品表示を確認することは、食育推進計画基本目標 4「安全・安心な環境をつくる」の基本方針 (1)「食に関する正しい知識を身につける」の指標である。R2 年度から「いつも確認している/ときどき確認している/あまり確認していない/全く確認していない」の四つに変更されている。「いつも確認している」と回答した人は、27.6%で前回調査から 9.1 ポイント減少した。

<単数回答>

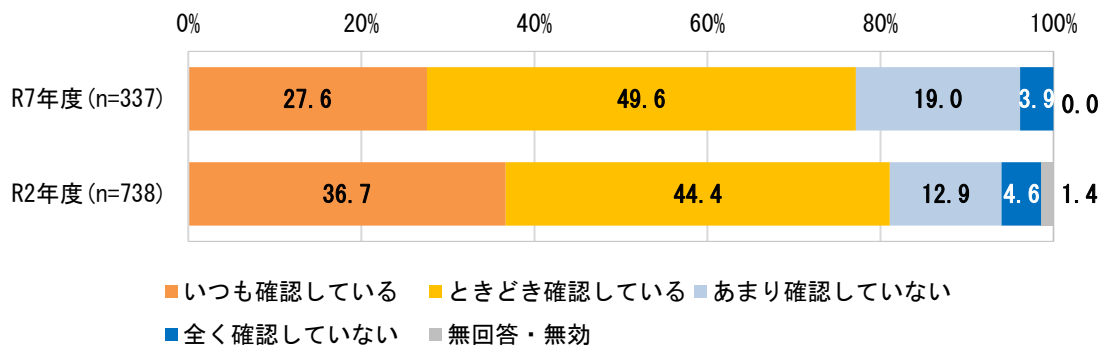


図 30 食品表示の確認 結果推移

食育推進指標 18

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
18	食品表示を必ず確認する市民の割合	-	65.5%	36.7%	27.6%	80%

※H27 年度は「はい」の割合、R2 年度以降は「いつも確認している」の割合

5. 地産・地消について

問 21. あなたの家庭では、福津市でとれた農作物や魚介類を使用していますか。(SA) (第2次福津市食育推進計画 指標2)

福津産の農作物や魚介類をよく使用することは、食育推進計画基本目標1「元気な地域をつくる」の基本方針(1)「食を通して地域を知る」の指標である。福津市産の農水産物を「毎日使用している」(6.2%)、「よく使用している」と回答した人(40.7%)と合わせた割合は46.9%、前回調査時から1.6ポイント増加した。

<単数回答>

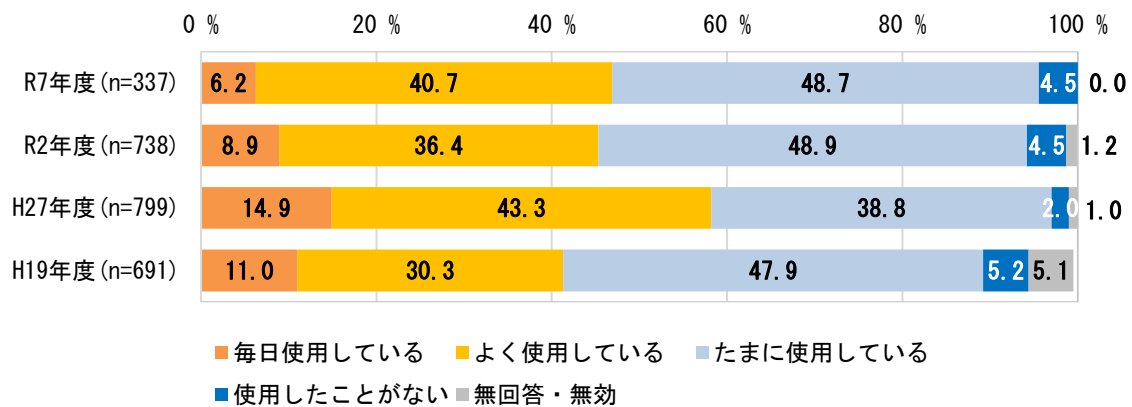


図 31 福津市でとれた農水産物使用頻度 結果推移

食育推進指標 2

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
2	毎日の食事に、旬のものや地元産の食材をよく使う市民の割合	41.3%	58.2%	45.3%	46.9%	70%

(問 21 で「よく知っている/ある程度知っている/あまり知らない」を選んだ人に)
 問 21-1 あなたは、福津市でとれた農産物や海産物をどこで購入していますか。
 (MA)

福津市産の農産物や海産物の購入場所については、福津市内の施設（スーパー等）が最も多く（68.2%）、次いで市内の産直施設（ふれあい広場ふくま・お魚センターうみがめ・あんずの里市）が62.9%であった。

<複数回答>

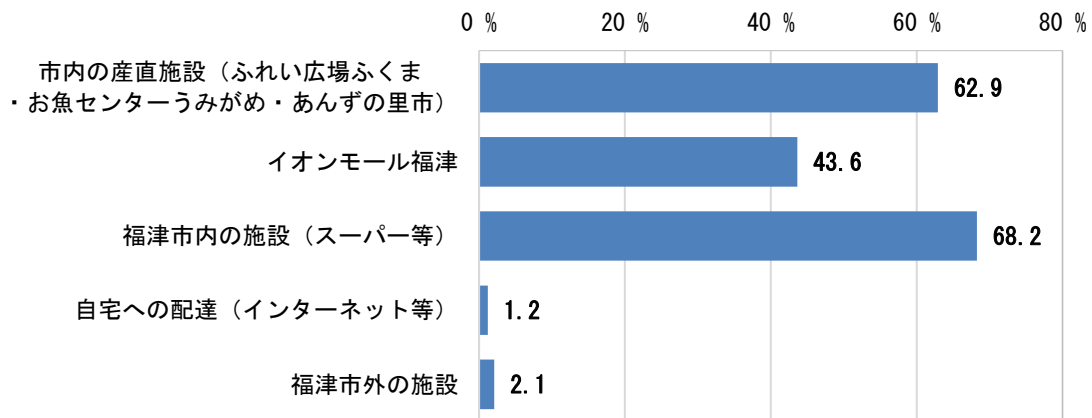


図 32 福津市産の農産物・海産物の購入場所 (n=322)

6. 食文化・伝統料理について

問 22 あなたは、伝統料理や郷土料理について知っていますか。(SA)
 (第2次福津市食育推進計画 指標 16)

伝統料理や郷土料理を知っていることは、食育推進計画基本目標3「食への感謝の気持ちを育てる」の基本方針(2)「食文化を次世代につなげる」の指標である。伝統料理や郷土料理の認知について「はい」と回答した人の割合は82.8%で、前回調査時から10.7ポイント増加した。

<単数回答>

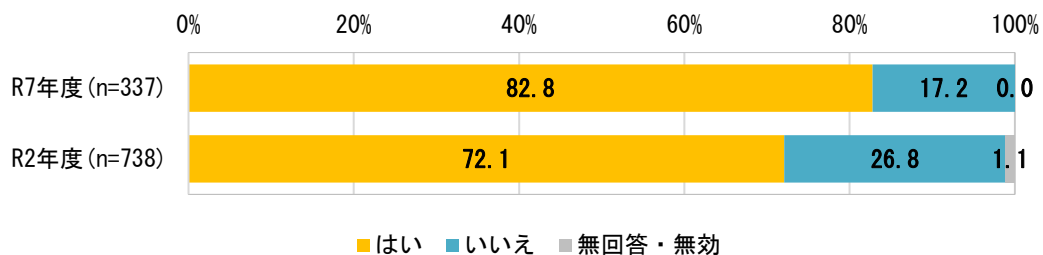


図 33 伝統料理・郷土料理の認知度 経年推移

食育推進指標 16

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
16	伝統料理や郷土料理を知っている市民の割合	—	—	72.1%	82.8%	90%以上

問 23. あなたは、食に関する作法や望ましい食生活（行事食を取り入れた食生活）に関心がありますか。（SA）（第2次福津市食育推進計画 指標17）

「食に関する作法や望ましい食生活に関心があること」は、食育推進計画基本目標3「豊かな心を育む」の基本方針（2）「食文化を次世代につなげる」指標の一つである。食に関する作法や望ましい食生活について「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、74.5%で、前回調査から0.6ポイント増加した。

<単数回答>

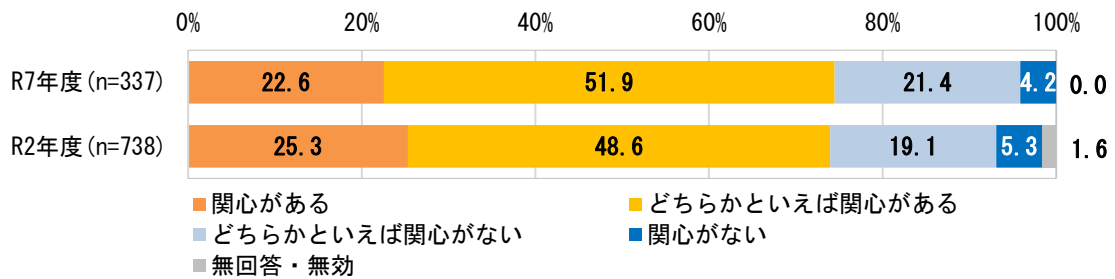


図 34 食に関する作法や望ましい食生活への関心 経年推移

食育推進指標 17

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
17	食に関する作法や望ましい食生活に関心ある人の割合	—	—	73.9%	74.5%	60%以上

7. その他

※問 24 性別、問 25 年齢、問 26 住所（小学校校区）、問 27 家族構成、問 28 職業は、1. 対象者の属性に結果を掲載した。

問 29. あなたの暮らし向きはいかがですか。（SA）

回答者の暮らし向きは、「ゆとりがある」「ややゆとりがある」と回答した人の割合は、39.5%であった。「ゆとりがない」「まったくゆとりがない」は 24.6%であった。

<単数回答>

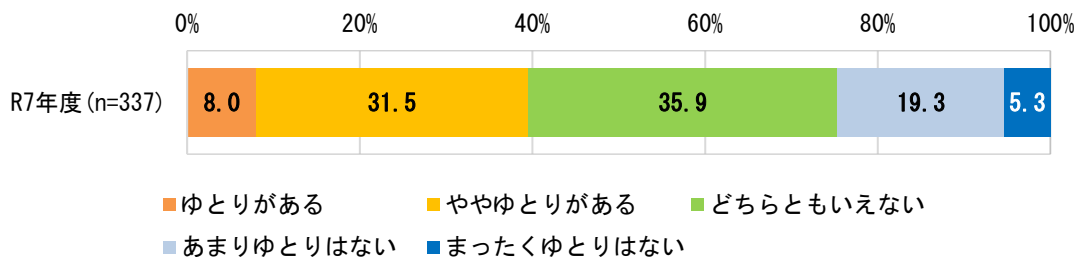


図 35 暮らし向き

問 30. あなたは日々の生活に時間的なゆとりを感じますか。（SA）

回答者の時間的なゆとりは、「時間的なゆとりを感じる」「やや時間的なゆとりを感じる」と回答した人の割合は、35.9%であった。「あまり時間的なゆとりを感じない」「まったく時間的なゆとりを感じない」は 37.9%であった。

<単数回答>

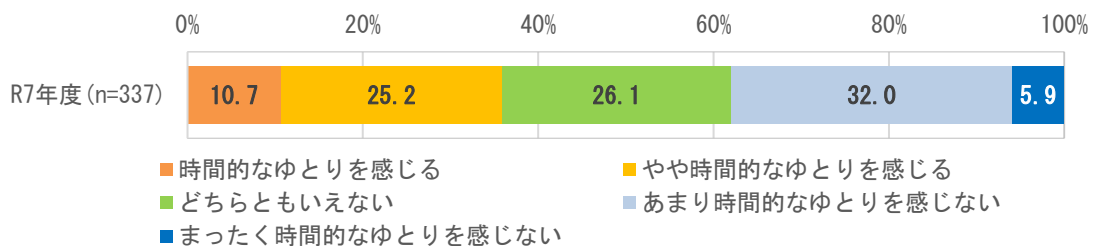


図 36 時間的ゆとり

問 31. あなたは自分の健康状態について、どのようにお感じですか。（SA）

回答者の健康状態は、「とても良い」「まあ良い」と回答した人の割合は、57.8%であった。「あまり良くない」「良くない」は16.1%であった。

<単数回答>

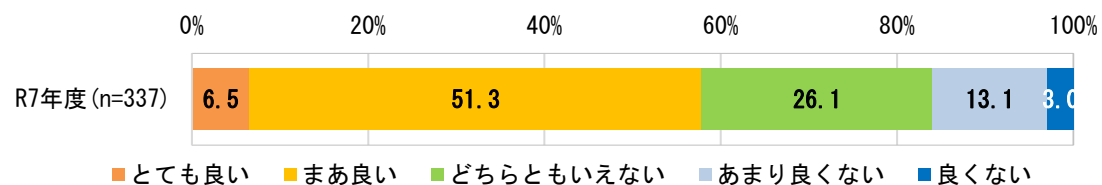


図 37 健康状態

問 32. ご自身や家庭の日々の生活の中で食育に関することで行っていることがございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

53名（15.7%）から自由記載欄に食育の実践内容が寄せられた。

表4 「食育」の実践に関する自由記載抜粋

料理に関すること
食事は味噌汁を作り、野菜サラダやおひたしと果物等、バランスよく食べるようにしている。
極力自炊。家庭菜園。コンポスト。子どもとの調理。腸活。献立を考えて買い物に行き、日にちに間に合えば期限の短いものを選ぶ。
家族に職場でのお昼は弁当を入れる事。塩分に気をつけてます。
素材の味がわかるように、煮込み料理はあまりしないで、各自で少なめの調味料(ドレッシング等)で味わっている。
食事で心が豊かになることができればと思い、家族が笑顔になれるような献立を考えている。
SNSで献立探し
麴を使った料理
旬の食材に関すること
できるだけ国産のものを食べるようにしている。メディアやSNSに過剰に反応しないようにしている。食品を捨てることや食べ残しにはものすごく抵抗があるため体には良くないかもしれないが、無理しても食べきるようにしている。
旬の食材をなるべく取り入れている
野菜摂取に関すること
朝食、昼食、夕食に必ず野菜（緑黄色）
感謝して食べることを、必ず野菜を摂ることを意識してます
毎日3食野菜を摂る
毎日の料理に色々な種類の野菜を使うように心がけている。
地産地消に関すること
コンビニ弁当は出来るだけ購入せずに、手作りするか、パン屋や道の駅を利用している。産地を見て、出来るだけ九州産を購入している。
出来合いを購入せず地産地消を心掛けて使うようにしている
できるだけ福津の野菜を使う
健康な食べ方に関すること
生活習慣病予防の為に料理に取り組んだりしています。
素材の味を大事にして減塩には心がけてます。
毎朝必ず朝食を食べる。土日はテレビを消してご飯をたべる
健康を意識した生活や食事の情報をTVや雑誌などで見かけたらすぐに家族と共有している。
出来るだけ品目を多くするように心がけている。
子どもへの食育
子どもと一緒に料理をする。
トマト狩り、とうもろこし狩り、じゃがいも掘り等地域の農業体験に親子で毎年参加しています。
ご飯を食べ残すのは勿体ないと子供に話をする・食べ物には多くの人や生き物が関わって食べさせてもらってる、関わる全ての物や人に日々の感謝を忘れないことを伝える・嫌いなものでも、出されたものは食べられるようになること、などを話したりしています。
家族3人揃っていただきますすること。美味しいねと子どもに問いかけながら笑顔で食べる。
普段は最低限自分達の食事を気をつける程度、孫が来た時はもっと意識して声掛けもしています
子どもの食事の際、いただきます、ごちそうさまを言う習慣をつけている

栽培に関すること
母が畑をしているので、自分で収穫し、食べるように促している。
農薬を使わず自分で育てた農産物を食べてもらう
自宅の庭で、有給野菜を作っている。虫も食べない綺麗な野菜は購入したくありません。
少しだけ自分で野菜を育てている。
環境に関すること
食品ロスを出さないよう心がけている
できる限り無農薬野菜を取り入れ、SPFの肉を買いに回っている。環境に配慮した生活（化学物質を使わない）を心がけ、環境に付加のかからない生活を模索している。私たちの健康は、すべての環境の循環によって成り立つもので、人間様にならない取り組みを模索している。
コンポストを使い、生ごみは捨てずに堆肥にしています。出る生ごみの量を知ること、買いすぎたり作りすぎたりすることが少なくなり、生ごみ以外のごみも少なくなりました。
食べれる分だけ買うようにしている
食品安全・衛生に関すること
嫌いなものでも災害時に何でも食べれるようになることを推進してます
商品購入の際には裏面の添加物を確認して、体に悪い物が入っている物は買わないようにしている

問 33. 「食育」の推進に関するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

18歳以上の市民では、32名（9.5%）から自由記載欄に「食育」の推進に関する意見が寄せられた。

表5 「食育」の推進に関する自由記載抜粋

子どもの食育に関して
小学校から中学校では食べ物に関する授業をしっかりして欲しい。たばこや酒の飲み過ぎの悪影響をしっかり伝えて欲しい。
子どもたちにも、自身で健康的な料理ができるように、働きかけて欲しいなと思います！
保育園や幼稚園にコンポストを導入するのはいかがですか？生ごみを捨てずに堆肥にすることで、循環について教える事ができ、食育や食ロスに家族で取り組める用になると思います。
幼保の時や小学校で食育を広め、中学生や若い世代、保護者にも食育が浸透して広まって行けば10年20年先には「当たり前」になるのではないかと期待したい
子供の内においしい物を食べる、食文化に触れる事はとても大事な事と考えます。経済的な背景から限界もあるかと思えます。小学生の子達に様々な経験を通じて食べ物に興味を持つきっかけを作ってほしいです。
子どもたちには、人間の体は食べたものでできていることを自覚して、自分で食べるものを考えられる人間になって欲しい
○子どもたち（小、中、高校生）の健康促進のための活動を増やしてほしい <ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはんの大切さ（親子） ・栄養教室?添加物や栄養の偏り（親子） ・お菓子やジュースの有害さ（親子） ※例えば学校行事の中の交通安全教室などのように、毎年、専門の方が来られて親子に向けて話しをしてもらう機会を毎年強制的に取るようにする? ○介護中の方（実際私も102歳の母の食事等の介護の日々ですか…）のための栄養学や食べやすくするための工夫などの援助や支援?訪問やネット送信、病院との連携

体験型食育に関して
食は人生を豊かにすると思います。サラリーマンをしており、平凡な日々の中では家族と一緒に夕食を食べることが唯一の楽しみであります。食に関して知識を持って正しく判断したいと思いますが、楽しく食事することが何よりだと思います。豊かな食生活を送れるよう学習と体験が両立して料理教室や農・漁業体験などの食育を推進してもらえると嬉しいです。
家庭農園を試みたい。農薬を使わない野菜作り。
食環境整備に関して
スーパーなどにレシピを置いてもらえると手軽に読みます。
未就学児への食育をどのような形で実践すればよいのかを広報誌や子どもサロンでの講座、チラシ等で教えていただけると嬉しい。
日本はあまりにも添加物が多すぎる。無添加食品を増やすべきです。子供たちに添加物の知識を教えるべきです。
行政主導で野菜農家に不良品の野菜を継続的に提供して貰える仕組みを構築する。
フードバンク(支援側)を気軽に出来るといいと思う。受け付け窓口が多数あるといい。情報も欲しい。
その他のご意見
これを機会に食育にもう少し関心を持って積極的に参加したいと思います
市民の方々の体験談を紹介して参考にしていけば良いのではと思います。
感覚過敏・少食の人間もいるので、嫌いなものでもむりやり食べるとか、苦い・酸っぱい・辛いものを我慢してでも食べるとか、強要することは絶対にしないでほしいです。
「食育」自体が、よくわからない。